

労働者調査に関する報告書

「職業情報提供サイト(日本版 O-NET)」活用促進事業(令和6年度)
報告書参考資料4

MRI 三菱総合研究所

2025年3月

人材・キャリア事業本部

目次

1. 労働者調査結果報告	3
2. 調査結果詳細	14
2.1 アンケート調査	15
2.1.1 アンケート調査概要	16
2.1.2 アンケート調査結果概要	20
2.1.3 アンケート調査結果詳細	40
2.2 ヒアリング調査	70
2.2.1 ヒアリング調査概要	71
2.2.2 ヒアリング調査結果概要	72
2.2.3 ヒアリング調査結果詳細	74

1. 労働者調査結果報告

1. 労働者調査結果報告

目的・実施事項の概要

● 目的

- 将来的なjob tag掲載情報検討のため、求職者等の就職活動において、どのような情報を必要としているかを明らかにすることを目指す。

● 実施事項概要

仮説の設定 ／プレヒアリング	・ 求職者が就職活動において有用と考えるであろう職業情報を仮で設定 ・ 仮説(転職者が有用と思う情報)について、有識者にご意見をいただき、仮説修正 ・ ヒアリング対象:東京労働局(ハローワークご担当者等)、人材サービス企業
アンケート調査	・ 仮説をベースに、将来job tagに掲載する情報を検討する上での実証的根拠となる実態把握データを収集 ・ 対象:モニター会社のモニター
ヒアリング調査	・ アンケート調査で明らかになった情報を深掘りし、job tag上でどのように掲載すればより有効か、ヒアリングを実施 ・ 対象:転職経験者(10名)
分析・まとめ	・ 将来的なjob tag掲載情報の案を、上記調査結果をもとに作成

1. 労働者調査結果報告

調査にあたって設定した情報項目

- 転職活動時に必要、かつ、job tagに掲載することで有効に活用され则认为られる情報を仮説（Ⅰ～Ⅵ）として設定（下表）し、各仮説に複数の情報を設定した（次頁）。

※なお、仮説検証のための調査に加え、「job tag」の認知度及び機能についても併せて調査を行った。

有効と认为られる情報の仮説	想定
Ⅰ. 労働市場の統計情報	労働市場や、日本全体の失業率など、労働市場のマクロ情報も転職時に知りたいと想定。
Ⅱ. 中長期的展望	中長期的なキャリア選択に際し用いる情報として、各産業や職種の将来の需要について、知りたいと想定。
Ⅲ. 人材の流動状況	特に産業や職種を変更して転職を検討している場合に、転職の受入度合いや転職前後の職種を知ること、転職のハードルの高さを知りたいと想定。
Ⅳ. 職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等	特に産業や職種を変更して転職を検討している場合に、自身にできる仕事内容なのか、賃金は今と比較して上がるのか、スキル・資格はどの程度身に付けておいた方がいいのか、自身の経験タスクは活かせるか等を知りたいと想定。
Ⅴ. 働き方に関する情報	労働時間や働き方の柔軟性など、労働者の状況に合わせた働き方ができるかどうかについて、知りたいと想定。
Ⅵ. 職業間比較	どの職業を選べばいいのか、情報解釈に際して、職業間で指標等を比較して判断したいと想定。

1. 労働者調査結果報告

(参考)情報項目の詳細

No	仮説	情報項目
I	労働市場の統計情報	① 直近の日本の離職率
		② 日本の失業率
		③ 日本の長期失業者数
		④ 直近の有効求人倍率
		⑤ 検討している業界や職種の求人数
II	中長期的展望	① 典型的なキャリアパスはどのようなものか
		② キャリアアップにどの程度時間がかかるか
		③ 今後人材需要が高まることが見込まれる業界・職種か
		④ 現在賃金が高い業界・職種か
		⑤ 今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か
		⑥ 現在需要が高いスキルや技術の習得が可能か
		⑦ 今後需要が高まることが見込まれるスキルや技術の習得が可能か
		⑧ 生成AIによる代替可能性の高い業界・職種か
III	人材の流動状況	① 現在人材需要が高い業界・職種か
		② 転職時に求められる実務経験はどの程度か
		③ 経験無し/異職種からの転職割合はどの程度か
		④ 経験無し/異職種からの定着率はどの程度か
		⑤ 現在の業界・職種から転職する場合に、受け入れられやすい業界・職種はどこか
		⑥ どの年代の転職者が多いのか
IV	職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等	① 自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か
		② 転職時に必須となる資格はあるか
		③ 転職時に有していると好ましい資格はあるか
		④ 求められる技術系スキル(例えば、ITに関するものや、Excelなどのパソコンスキル、など)はどのようなものがあるか
		⑤ 自身が遂行可能なタスクを活かせる業界・職種か
		⑥ スキルや保有資格による賃金の差異はどの程度存在するか
		⑦ どのようなタスクが遂行できれば賃金が上昇するか
		⑧ 転職後に遂行するタスクは、どの程度の経験年数で対応可能になるか
		⑨ 仕事の場所や対人業務の頻度など、職場環境や仕事の特性はどのようなものか
		⑩ チームでの仕事など、業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるのか
V	働き方に関する情報	① テレワークが可能な業界・職種か
		② 働く時間を比較的自由に選べる(フレックスタイム等)業界・職種か
		③ 日中以外の時間帯(夜間勤務など)に就労が可能な業界・職種か
VI	業界内外での比較	① 同じ業界の異なる職種間での比較
		② 異なる業界で同じ職種間での比較
		③ 異なる業界で異なる職種間での比較

1. 労働者調査結果報告

アンケート調査／ヒアリング調査の方法等

- アンケート調査及びヒアリング調査の概要は以下の通り。

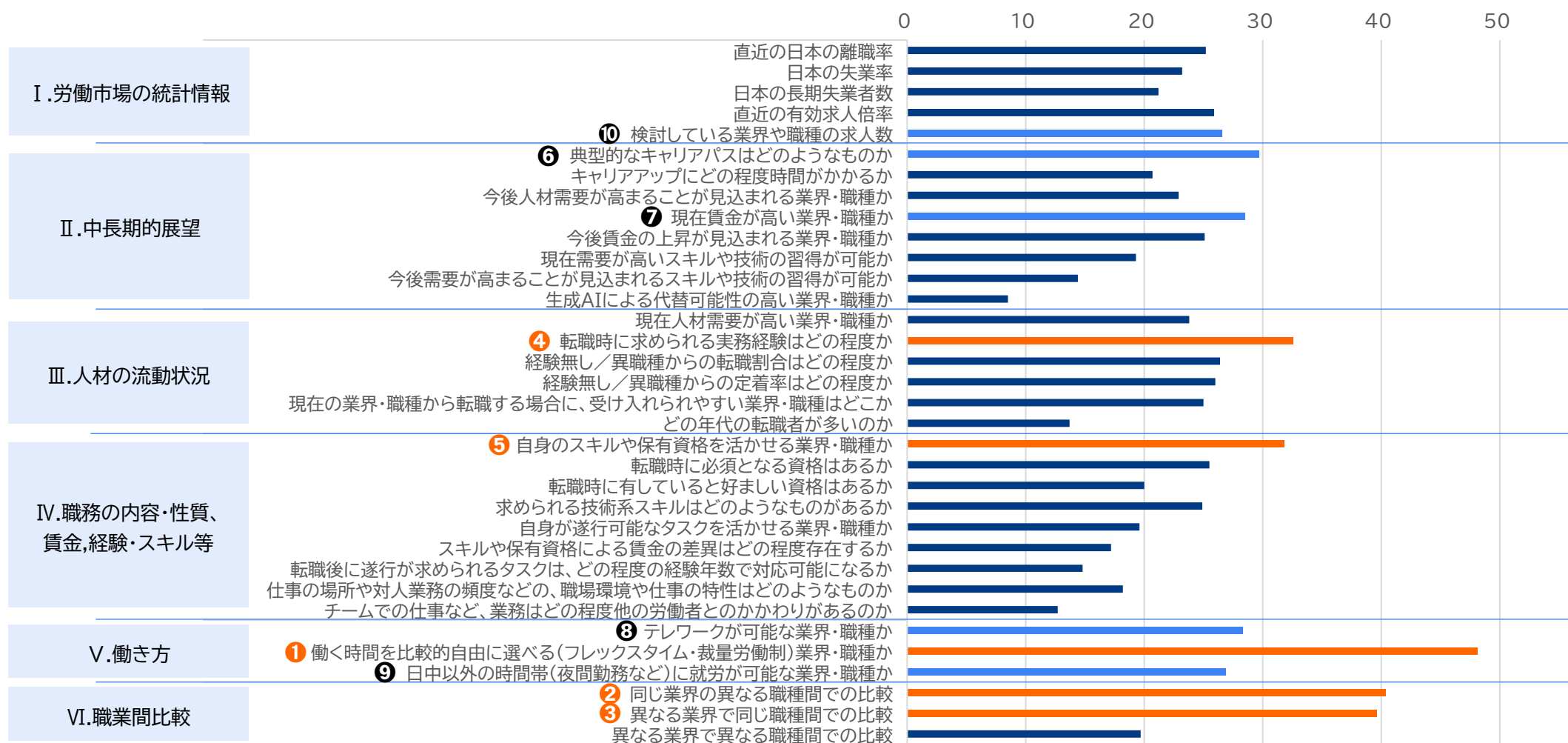
	アンケート調査	ヒアリング調査																																												
対象	転職経験者1,000名(1年以内の転職経験者)	転職経験者10名																																												
	<table><tr><th>項目</th><th>方針</th><th>理由</th></tr><tr><td>性別</td><td>男女半数ずつ</td><td>男性よりも女性の方が、ライフイベントの影響を受けやすく、働き方等を注視することが想定される。</td></tr><tr><td>年齢</td><td>若年層にやや人数のウェイトをかける</td><td>若年層の方が、育成・成長等、キャリアビジョンやキャリア展望に関連する情報を注視すると想定。 job tag利用者は30代までで約半数を占める</td></tr></table>	項目	方針	理由	性別	男女半数ずつ	男性よりも女性の方が、ライフイベントの影響を受けやすく、働き方等を注視することが想定される。	年齢	若年層にやや人数のウェイトをかける	若年層の方が、育成・成長等、キャリアビジョンやキャリア展望に関連する情報を注視すると想定。 job tag利用者は30代までで約半数を占める	<table><tr><th>項目</th><th>方針</th></tr><tr><td>企業規模</td><td>大企業・中小企業あわせて10人</td></tr><tr><td>産業・職種</td><td>偏りがないように選定</td></tr></table>	項目	方針	企業規模	大企業・中小企業あわせて10人	産業・職種	偏りがないように選定																													
	項目	方針	理由																																											
	性別	男女半数ずつ	男性よりも女性の方が、ライフイベントの影響を受けやすく、働き方等を注視することが想定される。																																											
	年齢	若年層にやや人数のウェイトをかける	若年層の方が、育成・成長等、キャリアビジョンやキャリア展望に関連する情報を注視すると想定。 job tag利用者は30代までで約半数を占める																																											
項目	方針																																													
企業規模	大企業・中小企業あわせて10人																																													
産業・職種	偏りがないように選定																																													
	<table><tr><th>年齢</th><th>男</th><th>女</th></tr><tr><td>18-29</td><td>166</td><td>166</td></tr><tr><td>30-39</td><td>167</td><td>167</td></tr><tr><td>40-59</td><td>167</td><td>167</td></tr></table>	年齢	男	女	18-29	166	166	30-39	167	167	40-59	167	167	<table><tr><th>NO.</th><th>企業名</th><th>規模</th><th>業種</th></tr><tr><td>1</td><td>A社</td><td>大企業</td><td>製造業</td></tr><tr><td>2</td><td>B社</td><td>中小企業</td><td>製造業</td></tr><tr><td>3,4</td><td>C社(2名)</td><td>大企業</td><td>シンクタンク業</td></tr><tr><td>5,6</td><td>D社(2名)</td><td>中小企業</td><td>建設業</td></tr><tr><td>7,8</td><td>E社(2名)</td><td>大企業</td><td>印刷業</td></tr><tr><td>9</td><td>F社</td><td>中小企業</td><td>運送業</td></tr><tr><td>10</td><td>G社</td><td>中小企業</td><td>卸売業</td></tr></table>	NO.	企業名	規模	業種	1	A社	大企業	製造業	2	B社	中小企業	製造業	3,4	C社(2名)	大企業	シンクタンク業	5,6	D社(2名)	中小企業	建設業	7,8	E社(2名)	大企業	印刷業	9	F社	中小企業	運送業	10	G社	中小企業	卸売業
年齢	男	女																																												
18-29	166	166																																												
30-39	167	167																																												
40-59	167	167																																												
NO.	企業名	規模	業種																																											
1	A社	大企業	製造業																																											
2	B社	中小企業	製造業																																											
3,4	C社(2名)	大企業	シンクタンク業																																											
5,6	D社(2名)	中小企業	建設業																																											
7,8	E社(2名)	大企業	印刷業																																											
9	F社	中小企業	運送業																																											
10	G社	中小企業	卸売業																																											
調査方法	WEBアンケート調査(調査会社のモニター調査を利用) 2万サンプルにスクリーニング設問を実施し、スクリーニングを通過したサンプルを、合計で1,000サンプル回収した。	インタビュー調査(オンライン)																																												
調査内容	□ 設定した各情報項目が、転職活動時に有用であったか。取得できたか。 □ job tagの認知度(2万サンプルに確認)、 利用して良かった点／悪かった点																																													

1. 労働者調査結果報告

調査結果(どの情報が求職者に求められているのか 1/2)

- 求められている情報項目はばらついており、アンケート調査では多くの情報項目で20-30%程度が有用と回答。
- 有用と回答された割合が高い情報項目は、「仮説VI.職業間比較」「仮説V.働き方」に属するものが多い。

仮説Ⅰ～Ⅵに設定した各情報項目について、「有用である」と答えた転職者の割合



1. 労働者調査結果報告

調査結果(どの情報が求職者に求められているのか 2/2)

- ヒアリング調査結果を以下に掲載する。アンケート調査結果と同様の回答箇所を青字で示す。

	ヒアリング調査
I. 労働市場の統計情報	● 情報を収集している人は少なかった。主だった理由は以下。 ✓ 特に離職率や失業率等については、年齢的に解雇の可能性が低く不要
II. 中長期的展望	● 全情報項目について、有用と考える人が多かった。特に注目が高かったものは以下。 ✓ 典型的なキャリアパスは、個社情報では収集しにくいため、職業情報の観点で収集されていた。 ✓ 賃金については、「現在の賃金水準」への関心が高く、「これからの水準の変化」については関心はそれほど高くない。
III. 人材の流動状況	● 特に「転職時に求められる実務経験の程度」については、多くの転職者に有用と考えられ、収集もされていた。主な理由は以下。 ✓ 未経験の職種を検討した際、どの程度実務経験が求められるかを気にしていた
IV. 職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等	● スキル・資格については、ほとんどの転職者が収集しており、タスクについては人によってばらつきがみられた ● 仕事の特性や人とのかかわりの程度についても、人によってばらつきが見られた。
V. 働き方に関する情報	● テレワークやフレックスタイム制については、全般的に需要が高かった。(個社情報としても需要が高かったが、)職業情報としても収集されていた。
VI. 職業間比較	● 転職者によってばらつきがみられた。必要される主な理由は以下 ✓ 様々な民間サイトで比較をしたが手間だった。情報を比較できるサイトがあると良い ✓ 賃金比較については、政府統計から把握可能だが、一般の人はなかなかたどり着けない。分かり易く、簡易な操作で確認できるものがあると良い。

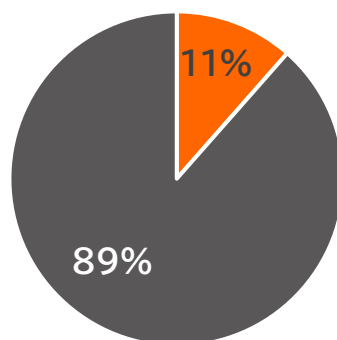
1. 労働者調査結果報告

調査結果(job tagの認知度 1/3)

- アンケート調査におけるjob tagの認知度は**10%程度**、**1年以内の転職者**に限れば**40%程度**である。
 - 約2万件に対する認知度の属性別傾向は、年代別では40代・50代で相対的に認知度が低く、性別では男性の認知度が若干高い。従業上の地位による認知度は会社役員や会社代表者で最も高く35%程度である。
- ※約2万件は、スクリーニング対象のサンプルであり、対象者には転職経験がない方も含まれるため、下図2つの結果の比較においては注意を要する。

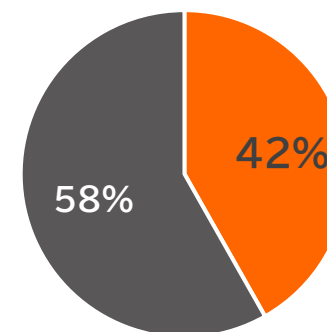
(スクリーニング対象の約2万人) job tagの認知度

N=20672



■ 知っている ■ 知らない

(実査対象の1,000人 | 1年以内の転職者) job tagの認知度



■ 知っている ■ 知らない

年代別の認知度

N=20672

	年代		
	18-29	30-39	40-59
知っている	15.5%	12.4%	7.8%
知らない	84.5%	87.6%	92.2%

性別による認知度

	性別	
	男	女
知っている	13.3%	10.0%
知らない	86.7%	90.0%

従業上の地位別の認知度

	職業上の地位									
	会社代表者・団体代表者	会社役員・団体役員等	会社員・団体職員・公務員	嘱託社員・契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業主	自由業・フリーランス	無職(学生、専業主婦・主夫を含む)	その他
知っている	33.4%	37.1%	12.8%	12.9%	9.4%	5.1%	8.1%	8.8%	5.9%	3.9%
知らない	66.6%	62.9%	87.2%	87.1%	90.6%	94.9%	91.9%	91.2%	94.1%	96.1%

※スクリーニング対象の2万サンプルに対しては、認知度のほか、年齢、性別、従業上の地位(現在)のみ情報取得している。

1. 労働者調査結果報告

調査結果(job tagの認知度 2/3)

- 1年以内の転職者に限定した結果を以下に示す。
- 年代別では40代・50代で認知度が低く、性別では男性の認知度が高い。従業上の地位による認知度は会社役員や会社員で50-60%と高い。
- 職業別の認知度は、ホワイトカラーで高い傾向にあり60%程度(事務職を除く)であり、特に低い傾向にあるのは、「福祉・介護」、「サービス業」、「警備・保安」及び「配送・輸送等」であり、20%台であった。
(ただし、「警備・保安」及び「配送・輸送等」はn数が極端に少ないことに注意が必要)

N=1000 年代別の認知度

	年代		
	18-29	30-39	40-59
知っている	48.8%	49.1%	27.5%
知らない	51.2%	50.9%	72.5%

性別による認知度

	性別	
	男	女
知っている	51.8%	31.8%
知らない	48.2%	68.2%

従業上の地位別の認知度

	職業上の地位				
	会社役員・団体役員・公務員(役員)	会社員・団体職員・公務員	嘱託社員・契約社員	派遣社員	パート・アルバイト
知っている	60.4%	51.7%	32.5%	19.4%	15.9%
知らない	39.6%	48.3%	67.5%	80.6%	84.1%

職業別(現職)の認知度

	職業															
	管理的職業 (課長職以上)	研究・技術の 職業	法務・経営・ 文化芸術等 の専門的職 業	医療・看護・ 保健の職業	保育・教育の 職業	事務の職業	販売・営業の 職業	福祉・介護の 職業	サービスの職 業	警備・保安の 職業	農林漁業の 職業	製造・修理・ 塗装・製図等 の職業	配送・輸送・ 機械運転の 職業	建設・土木・ 電気工事の 職業	運搬・清掃・ 包装・選別等 の職業	その他
知っている	60.4%	64.2%	63.6%	46.9%	47.1%	42.0%	43.8%	23.6%	34.0%	28.6%	66.7%	37.4%	25.0%	41.2%	50.0%	18.5%
知らない	39.6%	35.8%	36.4%	53.1%	52.9%	58.0%	56.3%	76.4%	66.0%	71.4%	33.3%	62.6%	75.0%	58.8%	50.0%	81.5%

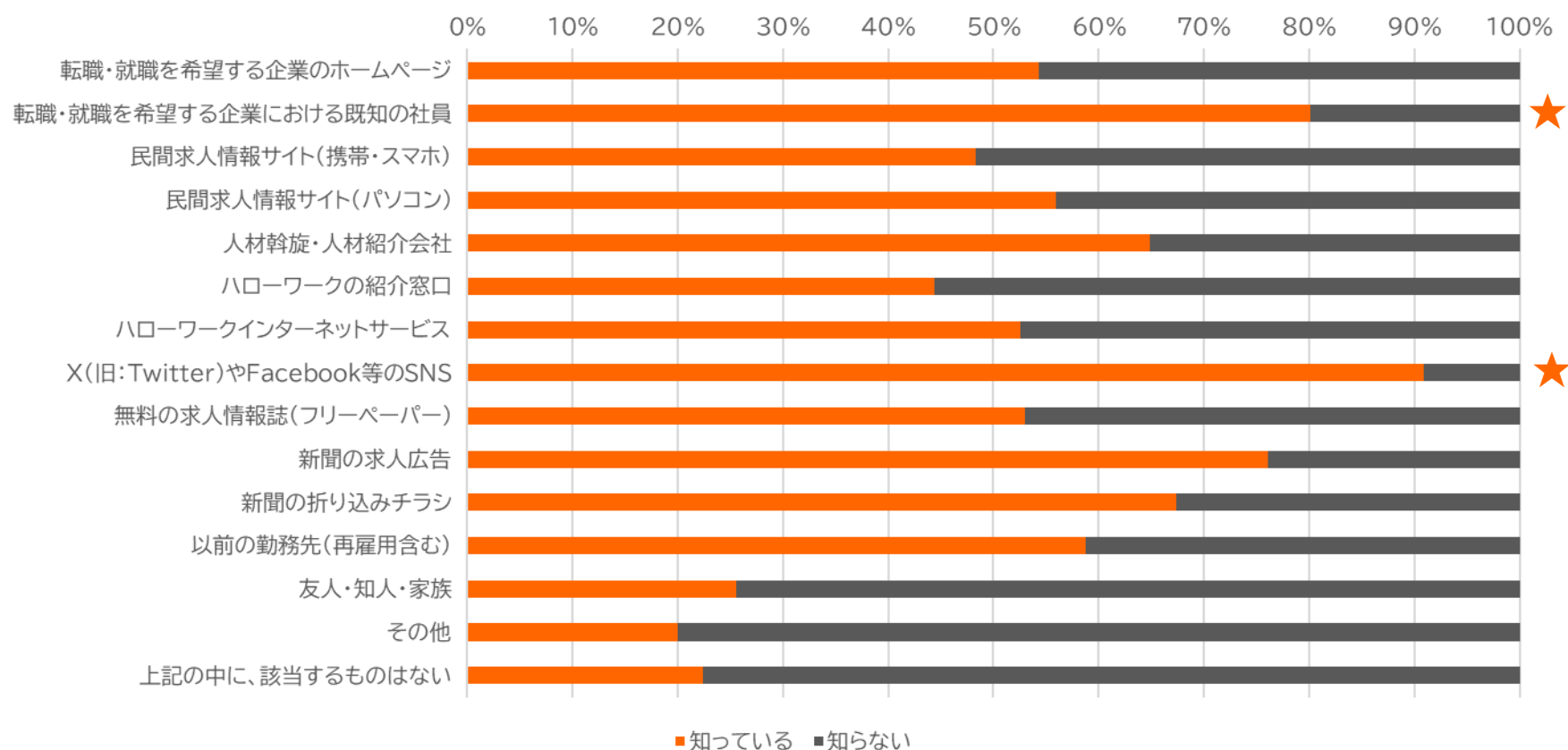
職業別(前職)の認知度についても傾向はほぼ同様であった。

1. 労働者調査結果報告

調査結果(job tagの認知度 3/3)

- 1年以内の転職者に限定した結果を以下に示す。
- 転職活動で利用した媒体(MA)別の認知度は、「希望する企業における既知の社員」、「SNS」で認知度が高い。

利用媒体別による認知度



1. 労働者調査結果報告

調査結果(job tagに対するご意見)

- ヒアリング調査におけるjob tagに対する意見を以下に掲載する。
- 多かった意見として自己診断ツール等の適職診断ができる機能について評価が高く、存在を知っていれば転職活動時に利用していた、というものであった。また、見やすさ、情報の探しやすさには改善の余地があるのではないかといった意見も多かった。

	ヒアリング調査
職業検索・職業詳細ページ	● 異職種転職の場合、社会にどんな職業があるのかを調べるところから始める必要があり、job tagは有用であると考える。 ● 職業詳細ページが詳細に、ある意味当たり前のことまで記載されているため、仕事内容のイメージが湧きやすい。転職時のミスマッチを防ぎやすいのではないかと。
自己診断ツール	● 存在を知っていれば、新しい職種に適性があるかどうか確認に使用した。 ● 転職を検討している時は、迷いがある場合が多い。そういった際に、自己診断ツールがあると良い。自身に合っている職種候補が示される点は非常に良い。 ● 「やりたいこと」はよくわからないが、「やりたくないこと」は明確にわかるため、やりたくないことを選んで適職を診断してもらえるのは有用である。(仕事の性質で検索機能) ● 「自己診断ツール」の機能は学生向けに有用ではないか。自身に合った職業を探すために活用できそうである。
その他	● 新卒、転職1回目、定年退職者等によって、就ける職業が変わってくるのではないかと。世代等で入口を分けた方がいいのではないかと。 ● 情報がわかりにくく、見やすさや情報の見せ方に工夫の余地がある ● 各種求職者向けツールは有用であるが、何も説明がない状態ではTOP画面からツールまでたどり着けない。 ● もっと様々なところで広報してほしい。 ● 全体的に情報量が多い。サイトとして完成されているとは思いますが、転職しようと漠然と考えている人が、このサイトで情報を探せるか疑問。 ● 公的機関のサイトであり信頼できる。 ● 具体の求人情報までたどり着けないと、転職活動時に活用することはない。逆に、民間の転職支援サイトと連携できれば、活用できるのではないかと。

2. 調査結果詳細

- 2.1 アンケート調査
- 2.2 ヒアリング調査

2. 調査結果詳細

- 2.1 アンケート調査
- 2.2 ヒアリング調査

アンケート調査の目的・対象・方法・期間

- アンケート調査の概要は以下の通り。

目的

転職経験者を対象に調査を行い、転職活動時にどのような情報を必要としていたか、job tagに掲載を求める情報は何か、その概況を定量的に把握し、明らかにすること。

対象

転職経験者1,000名
(サンプル設計は後述の通り)

調査方法

WEBアンケート調査(調査会社のモニター調査を利用)
2万サンプルにスクリーニング設問を実施し、スクリーニングを通過したサンプルを、合計で1,000サンプル回収した。

調査期間

2024年10月11日～2024年10月15日(5日間)

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.1 アンケート調査概要

調査設計(対象者・サンプル設計)

- (1)18-59歳の男女で、(2)過去1年以内に転職経験があり、(3)現在の従業上の地位が「会社役員・団体役員・公務員(役員クラス)」「会社員・団体職員・公務員」「嘱託社員・契約社員」「派遣社員」「パート・アルバイト」のいずれかである人、計1,000人を対象とした。
- 2万サンプルにスクリーニング設問を実施し、スクリーニングを通過したサンプルで、事前に設定した割り付け表を埋め、合計で1,000サンプル回収した。
- サンプル設計方針とサンプルの割り付け表は以下の通り。

項目	方針	理由	年齢	男	女
性別	男女半数ずつ	男性よりも女性の方が、ライフイベントの影響を受けやすく、働き方等を注視することが想定される。	18-29	166	166
年齢	若年層にやや人数のウェイトをかける	若年層の方が、育成・成長等、キャリアビジョンやキャリア展望に関連する情報を注視することが想定される。 若年ユーザーが多い(30代までが約半数を占めている)	30-39	167	167
			40-59	167	167

※従業上の地位(現職)について、当初案では正規・非正規を半数ずつ確保することを想定していたが、非正規の数が年齢によっては正規と比較しかなり少ない(20代男性の場合は0)、といった状況を加味し、サンプル設計から考慮を外した。

調査設計(調査項目)

- 調査項目は以下の通り。

項目	説明
スクリーニング設問	年齢・性別、転職経験の有無、現在の従業上の地位など
属性設問	学歴、会社規模や賃金、業種・職種等の現職・前職情報など
転職について	転職理由、転職時に使用したツールなど
転職時に有用だと考える情報	6つの仮説に基づく各情報(典型的なキャリアパス、今後需要が伸びる業界・職種か、自身のスキルや資格が活かせる業界・職種か等)について、転職時に有用と考えるかどうかを問う。仮説単位で1設問とした。
転職時に実際に収集した情報	6つの仮説に基づく各情報(典型的なキャリアパス、今後需要が伸びる業界・職種か、自身のスキルや資格が活かせる業界・職種か等)について、転職時に実際に収集したかどうか
転職時のjob tagの活用状況	転職時にjob tagを使用したかどうか、使用したときの長所や短所はどのようなものがあるのか

調査設計(調査結果の分析方針)

- 分析の観点

本調査のRQ | どういった情報が求職者に求められているのか

■ SQ① どのような属性(性別、年代、最終学歴等)の転職者に、どういった情報が求められているのか。

✓ 年齢／性別／学歴／年収ごとに有用だと考える情報に差はあるのか

■ SQ② 転職時の状況(転職理由はどういったものか、雇用形態等)によって、求める情報に差異があるか。

✓ 転職理由／雇用形態／職種変更の有無／現職の企業規模によって、有用だと考える情報に差はあるのか

■ SQ③ 転職者が求めているのに、取得できていない情報はどのようなものか。

✓ 有用だと考えているものの、収集できていない情報は何か

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ 本調査のRQ | どういった情報が求職者に求められているのか

■ 仮説単位

- 仮説Ⅴ(働き方に関する情報)に属する情報が特に転職経験者に求められていた。
- 仮説Ⅵ(職業間の情報比較)についても有用と考える転職経験者は多かった。
 - 勤務時間を始めとする多様な働き方を求める人が増えてきていることや、職業もしくは業界を変更しての転職を希望する際には、職業間の比較といった観点が重視されていると考えられる。

■ 情報項目単位※設定した情報項目は、仮説単位でマルチアンサーにて有用なものを回答いただいた。

- 各仮説内で設定した全情報項目のうち8割程度において、回答者の約20～30%が有用と回答
 - 転職経験者が求める情報は、人によってばらつきがみられると考えられる。
- 仮説Ⅴ、Ⅵ以外の仮説内に設定した情報のうち、有用との回答割合が高かったものは、「転職時に求められる実務経験の程度【仮説Ⅲ 人材の流動状況】」、「自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か【仮説Ⅳ 職務の内容・性質、賃金、経験・スキル】」、「典型的なキャリアパスはどのようなものか【仮説Ⅱ 中長期的展望】」、「現在賃金が高い業界・職種か【仮説Ⅱ 中長期的展望】」であった。
 - 自身が保有している経験、スキル、資格が通用する職種であるかについて関心が高いことがうかがえる。
 - 各職業のキャリアパスへの関心も高い。個社では公表されておらず、職業情報として期待されていると予想される。

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ SQ① どのような属性(性別、年代、最終学歴等)の転職者に、どのような情報が求められているのか。

■ 年代

- ✓ 多くの情報において、年代により求める情報に大きな傾向の差は見られない。
 - ✓ 40-59歳では、有用と思う割合が相対的に低く、特に割合が低い情報としては以下であった。
 - 「直近の日本の離職率」、「日本の失業率」、「日本の長期失業者数」（仮説Ⅰ）
 - 「典型的なキャリアパス」（仮説Ⅱ）
 - 「転職時に求められる実務経験はどの程度か」（仮説Ⅲ）
 - 「求められる技術系スキルはどのようなものがあるか」、「自身が遂行可能なタスクを活かせる業界・職種か」（仮説Ⅳ）
 - 「テレワークが可能な業界・職種か」、「働く時間を比較的自由に選べる業界・職種か」（仮説Ⅴ）
- ※「どの年代の転職者が多いのか」（仮説Ⅲ）のみ、40-59歳代が有用と思う割合が若干だが高い。

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ SQ① どのような属性(性別、年代、最終学歴等)の転職者に、こういった情報が求められているのか。

■ 性別

- ✓ 多くの情報において、性別により求める情報に大きな傾向の差は見られない。
- ✓ 男性の方が有用と思う割合が比較的高かった情報は以下であった。
 - 「直近の日本の離職率」、「日本の失業率」、「日本の長期失業者数」(仮説Ⅰ)
 - 「典型的なキャリアパスはどのようなものか」(仮説Ⅱ)
- ✓ 女性の方が有用と思う割合が比較的高かった情報は以下であった。
 - 「今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か」(仮説Ⅰ)
 - 「職場環境や仕事の特性はどのようなものか」、「業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるか」(仮説Ⅳ)

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ SQ① どのような属性(性別、年代、最終学歴等)の転職者に、こういった情報が求められているのか。

■ 学歴

- ✓ 多くの情報において、学歴により求める情報に大きな傾向の差は見られず、学歴が高いほど有用と思う割合が高い。
- ✓ 各学歴において、特に有用と思う回答割合が高かったものを以下に示す。
 - 大学院卒…「直近の日本の離職率(約46%)」(仮説Ⅰ)
 - 大学卒・大学院卒…「典型的なキャリアパス」(仮説Ⅱ)

■ 年収

- ✓ 多くの情報において、年収により求める情報に大きな傾向の差は見られず、200万円以下の年収帯において、有用と思う回答割合が、顕著に低い。
- ✓ 各年収帯において、特に有用と思う回答割合が高かったものを以下に示す。
 - 600万～800万円…「日本の長期失業者数(約51%)」(仮説Ⅰ)
 - 600万～1000万円…「典型的なキャリアパスはどのようなものか(50%弱)」(仮説Ⅱ)
 - 200万円以下…「どの年代の転職者が多いのか」(仮説Ⅲ)
 - 800万～1000万円…「日中以外の時間帯に就労が可能な業界・職種か(約44%)」(仮説Ⅴ)

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ SQ② 転職時の状況(転職理由はどういったものか、雇用形態等)によって、求める情報に差異があるか。

■ 転職理由

- ✓ 転職理由として「満足 of いく仕事内容ではなかった」「会社や労働環境に不満があった」「会社都合」を選択した転職者は、いずれの仮説についても「有用ではない」との回答割合が高く、情報を必要としない傾向にある。
- ✓ 「家庭の都合」「健康上の理由」を選択した転職者は、いずれの仮説についても「有用ではない」との回答割合が比較的 low、何かしらの情報を必要としている傾向にある。「家庭の都合」を選択した転職者では仮説Ⅵ(職種間情報比較)が、「健康上の理由」を選択した転職者では仮説Ⅱ(中長期的展望)、Ⅲ(人材の流動状況)が特に必要とされる傾向にある。
 - 「家庭の都合」を選択した転職者は、育児や介護等で譲れない条件があることが想定され、条件を満たす職業の選択が必須であり、職業情報の収集や職業間の情報比較を重要視していることが予想される。
 - 「健康上の理由」を選択した転職者は、これまでとは異なる働き方への転換を余儀なくされ、各種情報を必要としているのではない。

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ SQ② 転職時の状況(転職理由はどういったものか、雇用形態等)によって、求める情報に差異があるか。

■ 雇用形態

- ✓ 多くの情報において、雇用形態により求める情報に傾向の差は見られないが、正規雇用の方が有用と思う回答割合が高い。
- ✓ 正規雇用の方が有用と思う回答割合が顕著に高い情報は以下であった。
 - 「典型的なキャリアパス」(仮説Ⅱ)
- ✓ 非正規雇用の方が有用と思う回答割合が高い情報は以下であった。
 - 「検討している業界や職種の求人数」(仮説Ⅰ)
 - 「どの年代の転職者が多いのか」(仮説Ⅲ)
 - 「職場環境や仕事の特性はどのようなものか」、「業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるのか」(仮説Ⅳ)

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ SQ② 転職時の状況(転職理由はどういったものか、雇用形態等)によって、求める情報に差異があるか。

■ 職業変更の有無

- ✓ 多くの情報において、職業変更の有無により求める情報に回答割合の差は見られない。
- ✓ 異職種への転職経験者が有用と思う回答割合が相対的に高い情報は以下であった。
 - 「経験無し／異職種からの転職割合はどの程度か」、「経験無し／異職種からの定着率はどの程度か」(仮説Ⅲ)
 - 「働く時間を比較的自由に選べる業界・職種か」(仮説Ⅴ)
- ✓ 同職種での転職経験者が有用と思う回答割合が相対的に高い情報は以下であった。
 - 「自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か」(仮説Ⅳ)
 - 「同じ業界の異なる職種間での比較」(仮説Ⅵ)

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ SQ② 転職時の状況(転職理由はどういったものか、雇用形態等)によって、求める情報に差異があるか。

■ 企業規模

- ✓ 企業規模により求める情報の傾向に大きな差は見られないが、企業規模が大きいほど、有用と思う割合が高い傾向にある。
- ✓ 企業規模により有用と思う回答割合で大きく差が開いているのは以下であった。
 - 「典型的なキャリアパス」… 29人以下と30人以上で差が開いており、29人以下で約12%、300～900人で約40%である。

調査結果概要(全体俯瞰)

◆ SQ③ 転職者が求めているのに、取得できていない情報はどのようなものか。

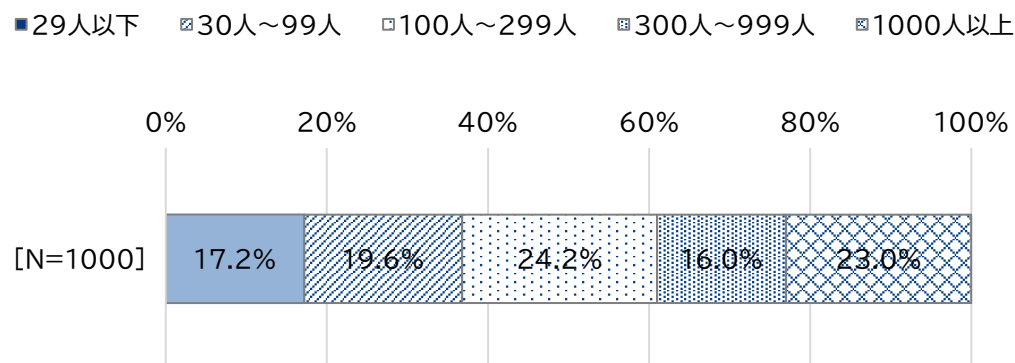
- ✓ ほぼ全ての情報において、有用と思うと回答した割合より、実際に取得したと回答した割合が下回っており、有用と思うが取得できなかった人が存在する。
- ✓ 比較的差が大きい情報(5%～8%)は仮説Ⅰに含まれる情報であり、差は5%～8%であった。
 - 「直近の日本の離職率」「日本の失業率」「直近の有効求人倍率」「業界や職種の求人数」(仮説Ⅰ)
 - 「現在賃金が高い業界・職種か」、「今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か」(仮説Ⅱ)
 - 「現在人材需要が高い業界・職種か」、「転職時に求められる実務経験はどの程度か」(仮説Ⅲ)
 - 「働く時間を自由に選択できる職種か(フレックスタイム制度など)」(仮説Ⅴ)

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

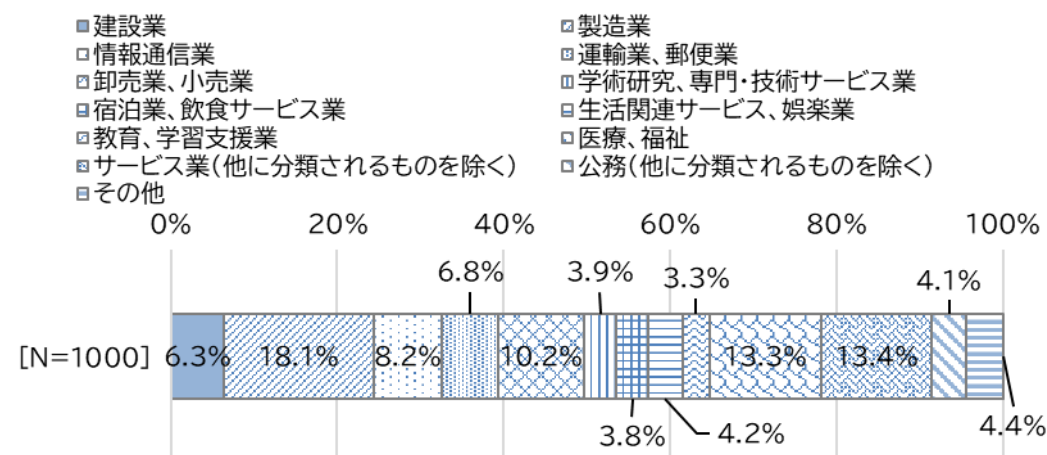
調査結果概要(回答者属性①)

- 調査設計に従いサンプルを回収した。
- 勤務先の企業規模や、業界についても偏りなく回収している。

あなたの現在の勤務先の企業の従業員数について、
当てはまるものを一つお選びください。(SA)



あなたの現在の勤務先の業界をお答えください。(SA)

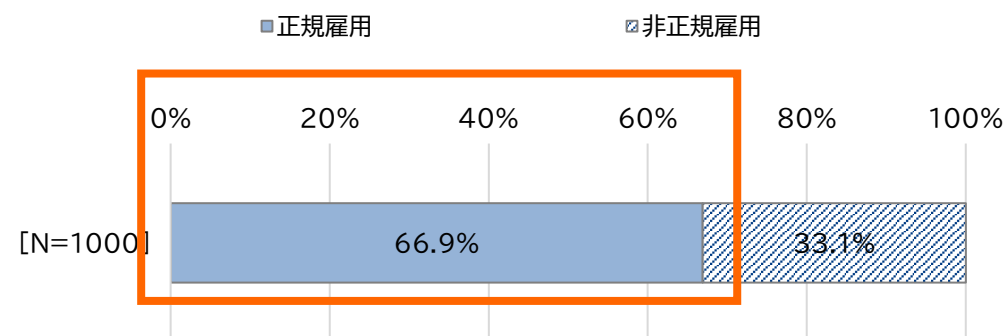
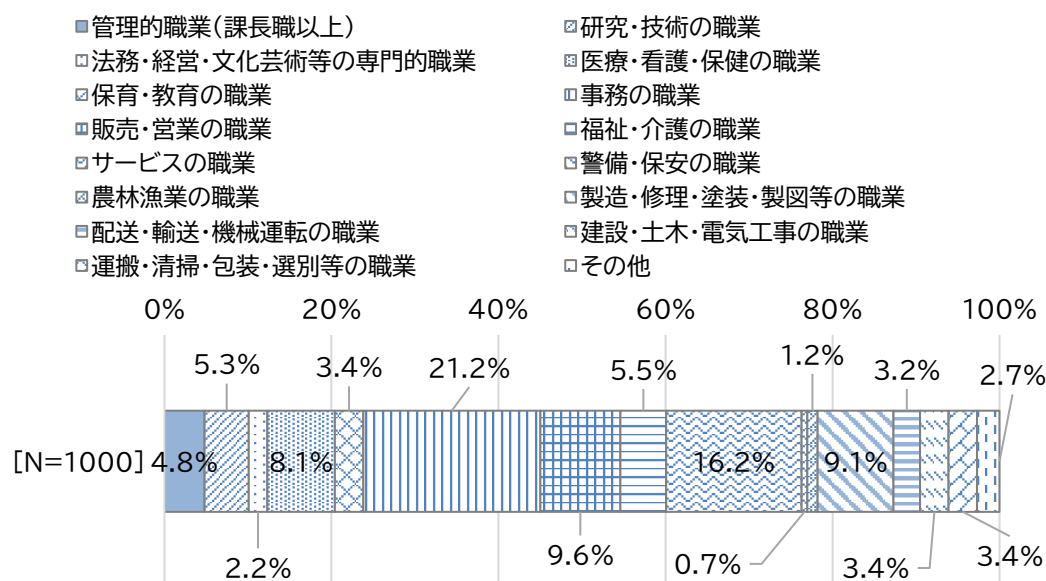


調査結果概要(回答者属性②)

- 職種は事務職が最も多く、21.2%だった。
- 正規雇用の割合は66.9%だった(「2. 会社役員・団体役員・公務員(役員クラス)」 「3. 会社員・団体職員・公務員」を足した割合を「正規雇用」とする)。

あなたの現在の職種は次のうちどれに当てはまりますか。
会社員、公務員等で課長職以上の方は、「管理的職業(課長職以上)」をお選びください。(SA)

あなたの現在の従業上の地位について、当てはまるものを一つお選びください。(SA)

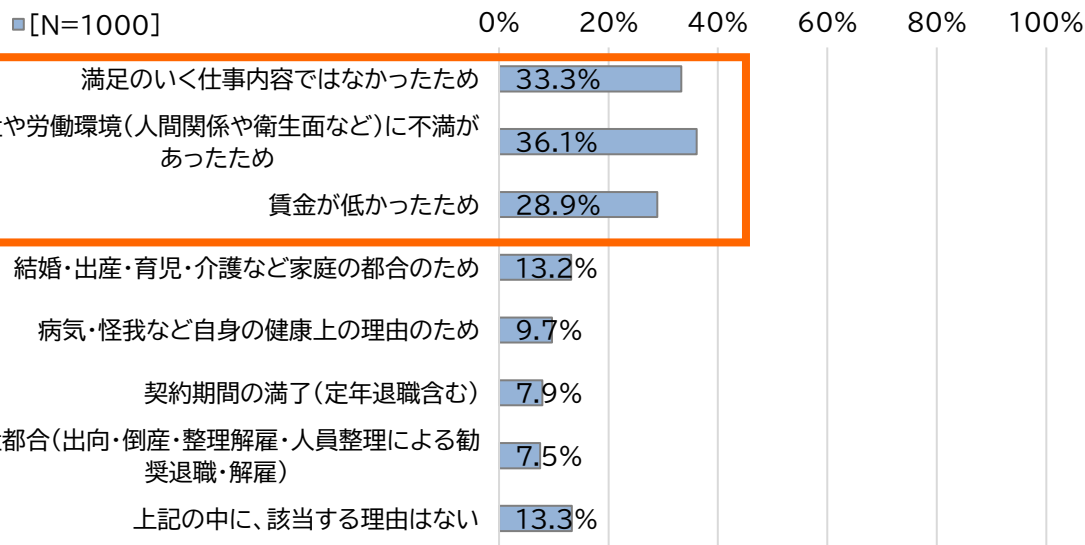


2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

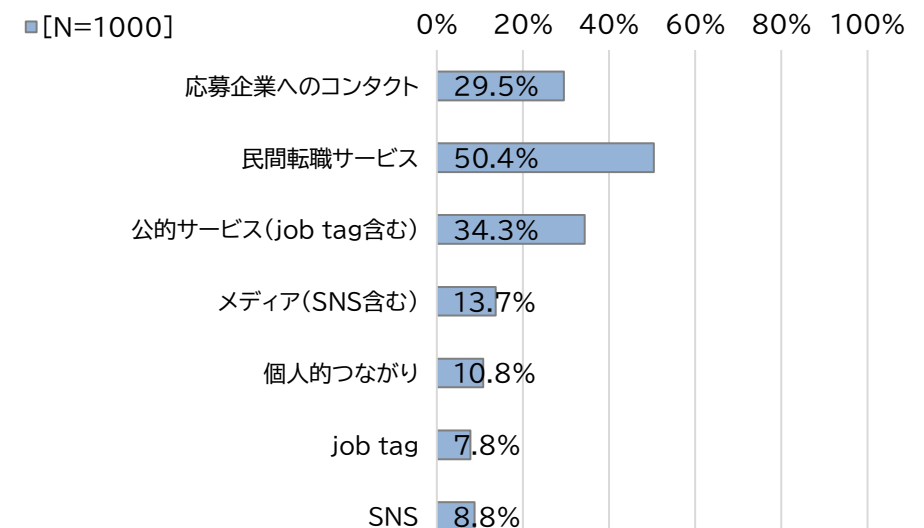
調査結果概要(転職理由、利用媒体等)

- 転職理由として多かったものは、上位から「会社や労働環境(人間関係含む)」、「満足のいく仕事内容ではなかった」、「賃金が低かったため」であった。
- 転職時に利用したサービスは民間求人情報サイトが最も多いが、ハローワークなども含め多種多様である。

直近の転職について、転職した理由は何ですか。当てはまるものを最大3つまでお選びください。(MA)



直近の転職において、利用したものはありますか。当てはまるものを全てお選びください。(MA)

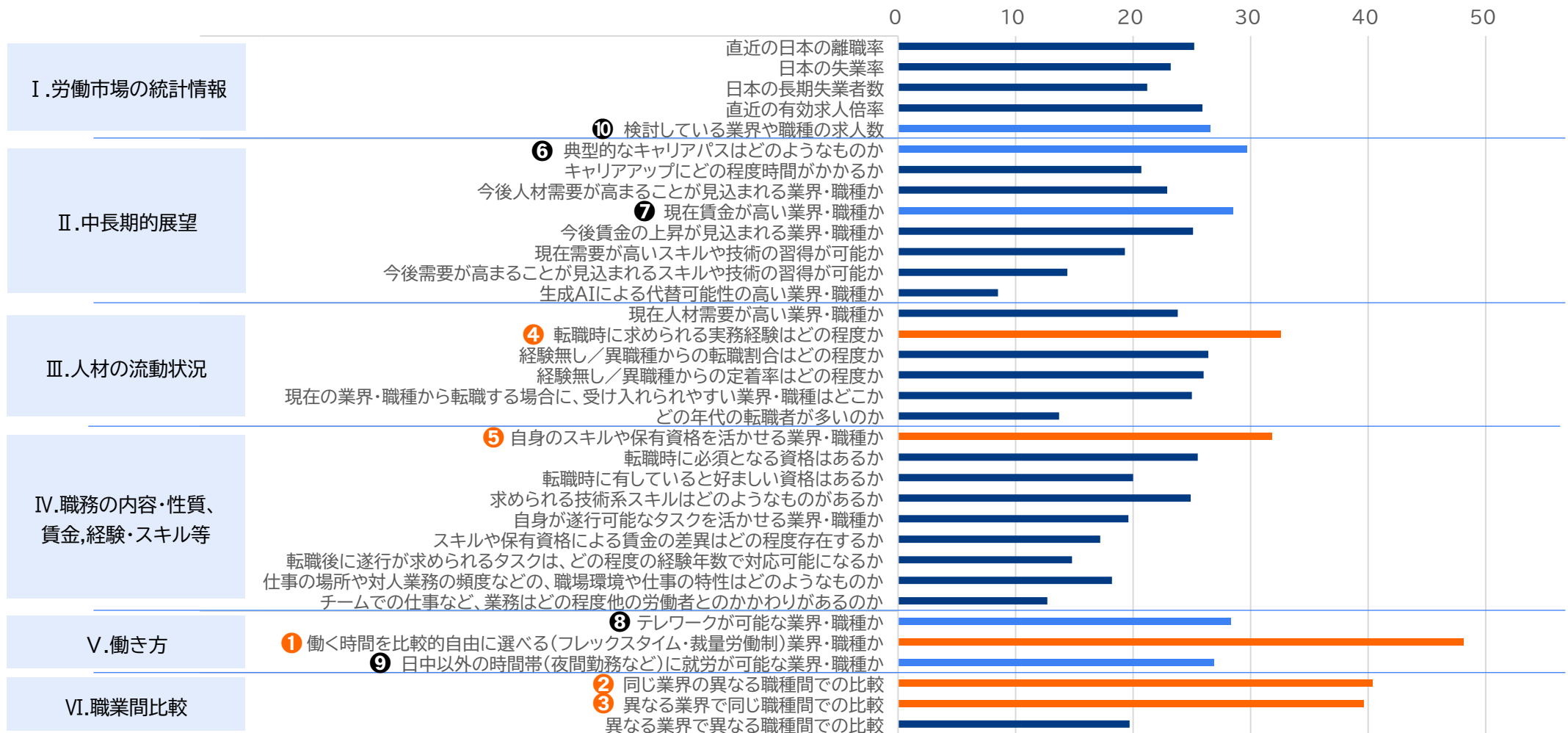


2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

調査結果概要(RQ どの情報が求職者に求められているのか)

- 有用と回答された割合が高い情報は、「仮説Ⅵ.職業間比較」「仮説Ⅴ.働き方」に属するものが多い。

仮説Ⅰ～Ⅵに設定した各情報項目について、「有用である」と答えた転職者の割合



2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

調査結果概要(SQ①どのような属性の転職者に、どのような情報が求められているのか)

- ◆ 各仮説(I～VI)において、「**有用な情報はない**」との回答割合の**属性別比較結果**を以下に示す。
 ※調査設問は、1仮説1設問とし、各仮説に含まれる3～10個の情報項目について、有用かどうかを問い、各設問(仮説)ごとに「有用な情報はない」の選択肢を設けた。下記表は、数値が小さいほど、各仮説に含まれる情報が有用であるとの回答割合が高いことを示している。
- 年代…全ての仮説において、40-59歳で有用な情報はないとの割合が高い。また、仮説IVがどの年代においても有用な情報ではないと考える割合が低く、仮説IVに属する情報項目のいずれかについては有用と答えた割合が高い。
 - 年代が高いほど就業期間が長く、職業情報に関する知見が蓄積されており、また、職業を変更するケースも低いことが想定され、転職時に改めて確認することはないことが推測される。
- 性別…全ての仮説において、男性の方が有用な情報はないとの割合が低く、情報を必要としている傾向にある。
 - 従業上の地位(正規雇用は男性の割合が高く、非正規雇用は女性の割合が高い)ことが影響しているのではないかと推察される。
- 学歴／年収…学歴／年収が高いほど、有用な情報はないと思う割合が低く、情報を必要としている傾向にある。

仮説 I ～VIにおいて、「**全て有用ではない**」と答えた転職者の割合

		年代			性別		最終学歴					年収					
		18-29歳	30-39歳	40-59歳	男性	女性	中学卒	高校卒	専修学校・短期大学・高等専門学校卒	大学卒	大学院(修士・博士)卒	200万円以下	200万円超～400万円以下	400万円超～600万円以下	600万円超～800万円以下	800万円超～1,000万円以下	1,000万円超
I	31.0	25.9	26.6	40.4	26.0	36.0	68.2	44.1	36.1	22.9	14.0	51.7	32.7	23.9	14.0	12.3	29.9
II	27.9	24.1	22.8	36.8	24.4	31.4	72.7	39.4	32.2	20.4	12.3	46.8	28.7	21.8	14.9	14.0	22.4
III	27.3	25.6	22.8	33.5	24.2	30.4	59.1	38.0	32.2	20.6	10.5	43.8	26.8	21.4	15.8	15.8	29.9
IV	24.9	22.6	20.7	31.4	23.0	26.8	59.1	37.1	28.3	17.9	10.5	42.4	23.4	20.2	14.0	15.8	22.4
V	30.2	27.4	26.6	36.5	27.2	33.2	72.7	40.8	35.2	22.5	17.5	45.3	30.8	26.9	15.8	17.5	28.4
VI	29.3	28.6	25.1	34.1	26.2	32.4	59.1	41.8	32.2	23.2	10.5	49.3	29.3	23.5	14.9	15.8	25.4

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

調査結果概要 (SQ②転職時の状況によって、求める情報に差異があるか 1/2)

- ◆ 各仮説 (I ~ VI) において、「**有用な情報はない**」との回答割合の**転職理由別**結果を以下に示す。
- 転職理由として「満足のいく仕事内容ではなかった」「会社や労働環境に不満があった」「会社都合」を選択した転職者は、いずれの仮説についても有用ではないとの回答割合が高く、情報を必要としない傾向にある。
- 「家庭の都合」「健康上の理由」を選択した転職者は、いずれの仮説についても有用ではないとの回答割合が比較的低く、何かしらの情報を必要としている傾向にある。「家庭の都合」を選択した転職者では仮説 VI (職種間情報比較) が、「健康上の理由」を選択した転職者では仮説 II (中長期的展望)、III (人材の流動状況) が特に低く、10%を下回る。
 - 「家庭の都合」を選択した転職者は、育児や介護等で譲れない条件があることが想定され、条件を満たす職業の選択が必須であり、職業情報の収集や職業間の情報比較を重要視していることが予想される。
 - 「健康上の理由」を選択した転職者は、これまでとは異なる働き方への転換を余儀なくされ、各種情報を必要としているのではないか。

仮説 I ~ VI に設定した各情報項目について、「**全て有用ではない**」と答えた転職者の割合

		満足のいく仕事内容ではなかった	会社や労働環境に不満があった	賃金が低かった	結婚・出産・育児・介護等家庭の都合	病気・怪我など自身の健康上の理由	契約期間の満了	会社都合
I	31.0	25.8	24.4	20.1	15.2	14.4	21.5	26.7
II	27.9	24.0	21.6	15.2	12.1	9.3	20.3	21.3
III	27.3	22.2	21.1	15.9	10.6	7.2	20.3	18.7
IV	24.9	17.4	16.1	11.4	10.6	12.4	15.2	18.7
V	30.2	24.6	25.5	18.7	14.4	13.4	13.9	26.7
VI	29.3	23.1	20.8	19.0	9.8	14.4	19.0	24.0

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

調査結果概要(SQ②転職時の状況によって、求める情報に差異があるか 2/2)

- ◆ 各仮説(I～VI)において、「有用な情報はない」との回答割合の雇用形態別、職業変更の有無、企業規模別結果を以下に示す。
- 雇用形態…非正規雇用は、正規雇用と比較し、有用な情報はないとの回答割合が高い。
- 職種変更…異職種に転職した方が、有用な情報はないとの回答割合が低く、職業情報を必要とする傾向にある。
 - ▶ 職種変更を検討するには、新たな職業の情報を求めることが推測される。
- 企業規模…99人以下で高い傾向にあり、100人以上の規模で低い傾向にあり、企業規模がある程度以上になると、職業情報を必要とする傾向が見られる。

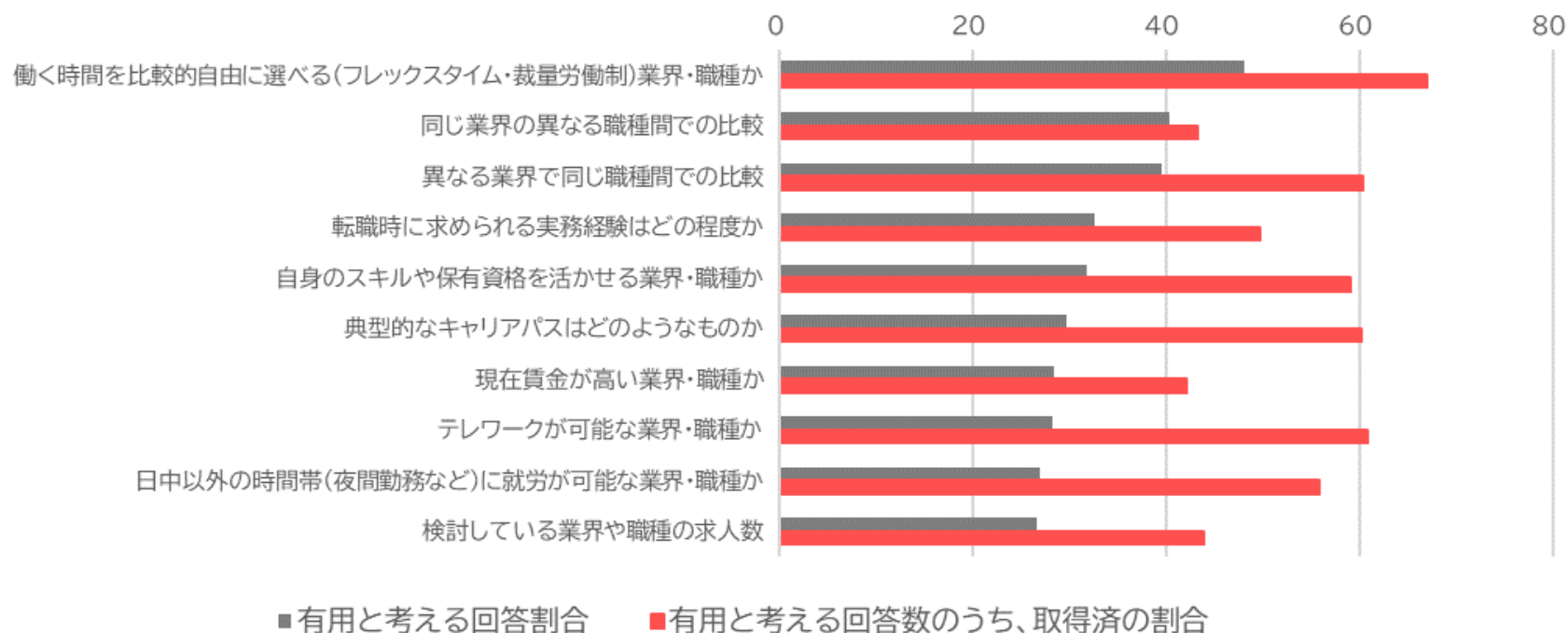
仮説 I ～VIに設定した各情報項目について、「全て有用ではない」と答えた転職者の割合

		雇用形態		現職と前職 の異同		現職の企業規模				
		正規雇用	非正規雇用	同職種	異職種	29人以下	30人～99人	100人～299人	300人～999人	1000人以上
I	31.0	25.4	42.3	33.3	28.2	46.5	32.1	28.1	21.3	28.3
II	27.9	23.2	37.5	31.7	23.4	46.5	30.1	23.6	19.4	22.6
III	27.3	23.0	36.0	30.9	23.0	43.6	27.6	21.5	22.5	24.3
IV	24.9	21.4	32.0	26.2	23.4	40.7	26.0	20.2	19.4	20.9
V	30.2	27.4	36.0	33.3	26.5	48.8	33.2	24.0	23.1	25.2
VI	29.3	24.2	39.6	30.9	27.4	45.3	34.2	23.1	23.1	23.9

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

調査結果概要 (SQ③転職者が求めているのに、取得できていない情報はどのようなものか)

- ◆ 有用と回答された割合が高いTOP10の情報項目において、「有用な情報である」との回答数に対する「取得した」との回答割合(橙色の横棒グラフ)を以下に示す。
- 取得できた割合が相対的に低い情報は、「同じ業界の異なる職種間での比較」「現在賃金が高い業界・職種か」「検討している業界や職種の求人数」であり、40%程度にとどまる。



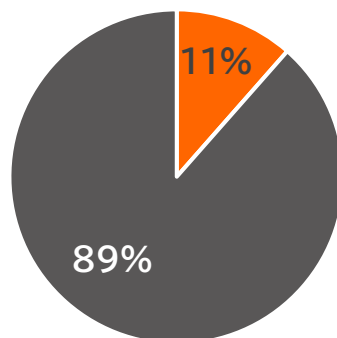
2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

調査結果概要(job tagの認知度 1/2)

- アンケート調査におけるjob tagの認知度は**10%程度**、**1年以内の転職者**に限れば**40%程度**である。
 - 約2万件に対する認知度の属性別傾向は、年代別では40代・50代で相対的に認知度が低く、性別では男性の認知度が若干高い。従業上の地位による認知度は会社役員や会社代表者で最も高く35%程度である。
- ※約2万件は、スクリーニング対象のサンプルであり、対象者には転職経験がない方も含まれるため、下図2つの結果の比較においては注意を要する。

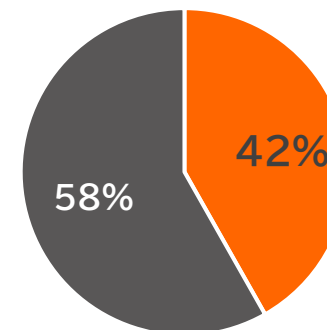
(スクリーニング対象の約2万人)job tagの認知度

N=20672



■ 知っている ■ 知らない

(実査対象の1,000人 | 1年以内の転職者) job tagの認知度



■ 知っている ■ 知らない

年代別の認知度

N=20672

	年代		
	18-29	30-39	40-59
知っている	15.5%	12.4%	7.8%
知らない	84.5%	87.6%	92.2%

性別による認知度

	性別	
	男	女
知っている	13.3%	10.0%
知らない	86.7%	90.0%

従業上の地位別の認知度

	職業上の地位									
	会社代表者・団体代表者	会社役員・団体役員等	会社員・団体職員・公務員	嘱託社員・契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業主	自由業・フリーランス	無職(学生、専業主婦・主夫を含む)	その他
知っている	33.4%	37.1%	12.8%	12.9%	9.4%	5.1%	8.1%	8.8%	5.9%	3.9%
知らない	66.6%	62.9%	87.2%	87.1%	90.6%	94.9%	91.9%	91.2%	94.1%	96.1%

※スクリーニング対象の2万サンプルに対しては、認知度のほか、年齢、性別、従業上の地位(現在)のみ情報取得している。

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.2 アンケート調査結果概要

調査結果概要(job tagの認知度 2/2)

- 1年以内の転職者に限定した結果を以下に示す。
- 年代別では40代・50代で認知度が低く、性別では男性の認知度が高い。従業上の地位による認知度は会社役員や会社員で50-60%と高い。
- 職業別の認知度は、ホワイトカラーで高い傾向にあり60%程度(事務職を除く)であり、特に低い傾向にあるのは、「福祉・介護」、「サービス業」、「警備・保安」及び「配送・輸送等」であり、20%台であった。
(ただし、「警備・保安」及び「配送・輸送等」はn数が極端に少ないことに注意が必要)

N=1000 年代別の認知度

	年代		
	18-29	30-39	40-59
知っている	48.8%	49.1%	27.5%
知らない	51.2%	50.9%	72.5%

性別による認知度

	性別	
	男	女
知っている	51.8%	31.8%
知らない	48.2%	68.2%

従業上の地位別の認知度

	職業上の地位				
	会社役員・団体役員・公務員(役員)	会社員・団体職員・公務員	嘱託社員・契約社員	派遣社員	パート・アルバイト
知っている	60.4%	51.7%	32.5%	19.4%	15.9%
知らない	39.6%	48.3%	67.5%	80.6%	84.1%

職業別(現職)の認知度

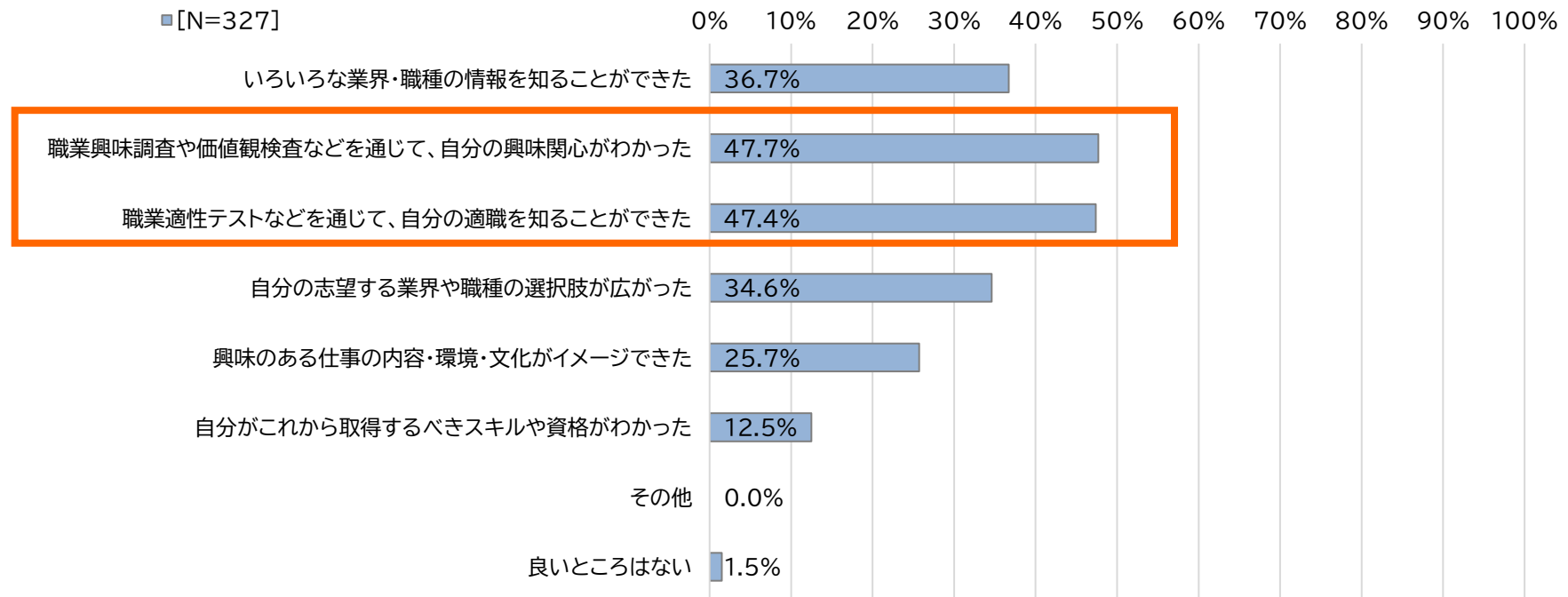
	職業															
	管理的職業(課長職以上)	研究・技術の職業	法務・経営・文化芸術等の専門的職業	医療・看護・保健の職業	保育・教育の職業	事務の職業	販売・営業の職業	福祉・介護の職業	サービスの職業	警備・保安の職業	農林漁業の職業	製造・修理・塗装・製図等の職業	配送・輸送・機械運転の職業	建設・土木・電気工事の職業	運搬・清掃・包装・選別等の職業	その他
知っている	60.4%	64.2%	63.6%	46.9%	47.1%	42.0%	43.8%	23.6%	34.0%	28.6%	66.7%	37.4%	25.0%	41.2%	50.0%	18.5%
知らない	39.6%	35.8%	36.4%	53.1%	52.9%	58.0%	56.3%	76.4%	66.0%	71.4%	33.3%	62.6%	75.0%	58.8%	50.0%	81.5%

職業別(前職)の認知度についても傾向はほぼ同様であった。

調査結果概要(job tag既存機能等の有効性)

- 職業情報が収集できる点に留まらず、job tag固有の機能である職業適性テストや価値観検査などが好評。

Q34 実際に転職活動においてjob tagを使用してみて良かった点を全て選んでください。(MA)



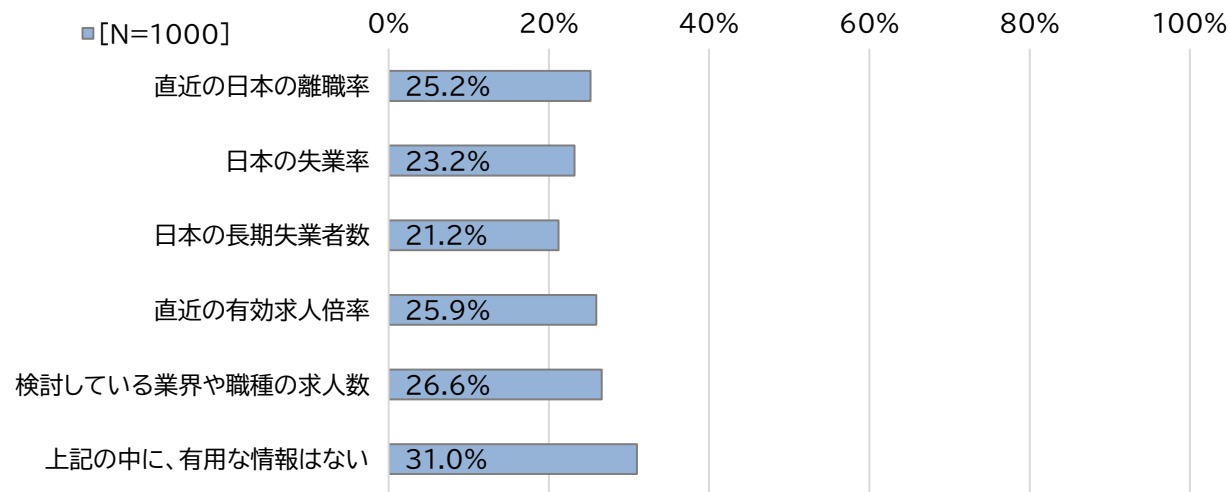
2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説Ⅰ.労働市場の統計情報 | 全体)

- 仮説Ⅰ（労働市場の統計情報）の各情報項目については、有用と思う情報に大きな差異は見られず、20～25%の回答割合であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



ヒアリング時のご意見

- ほぼ全ての対象者において、仮説Ⅰは収集はしていない情報であるとの回答であった。理由は以下のとおり
 - 離職率や失業率／数といった情報は、自身の年代(20代)では解雇の可能性も低く不要と考える。
 - 転職が必須の状況ではなかったため取得したいと考えていなかったが、社会情勢次第は有用と考える。
- 有用求人倍率や求人数は、社会情勢等タイミングが悪い時期に転職活動をしたくなかったため、新聞やニュースから取得していたとの回答もあった。

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説Ⅰ.労働市場の統計情報 | SQ①属性によって転職者が求める情報に差異はあるか)

- 年代…18-29歳と30歳代では大きな差分は見られないが、40-59歳では、有用と思う割合が相対的に低く、特に、「直近の日本の離職率」「日本の失業率」「日本の長期失業者数」は他の年代を10ポイント程度下回る。
- 性別…「直近の日本の離職率」「日本の失業率」「日本の長期失業者数」は、男性の方が有用と思う割合が高く、「直近の有効求人倍率」「検討している業界や職種の求人数」は、性別による差はほぼない。
- 学歴…学歴により求める情報に大きな傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において、学歴が高いほど有用と思う割合が高い。
…大学院卒においては、「直近の日本の離職率」を有用と思う割合が約46%と高い。
- 年収…ほぼ全ての項目において、200万円以下で有用と思う割合が相対的に低い。
…400万円超以上の年収帯においては、傾向に差がほぼ見られないが、600万円超～800万円以下については、「日本の長期失業者数」の回答割合が高く、約51%であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思える情報(MA)×年代・性別・最終学歴・年収

			年代			性別		最終学歴					年収					
			18-29歳	30-39歳	40-59歳	男性	女性	中学卒	高校卒	専修学校・短期大学・高等専門学校卒	大学卒	大学院卒	200万円以下	200万円超～400万円以下	400万円超～600万円以下	600万円超～800万円以下	800万円超～1,000万円以下	1,000万円超
	該当数	1000	332	334	334	500	500	22	213	233	475	57	172	196	242	160	230	67
Ⅰ	直近の日本の離職率	25.2	29.5	29.0	17.1	31.2	19.2	4.5	17.8	16.7	31.2	45.6	15.3	25.2	29.8	28.1	28.1	31.3
	日本の失業率	23.2	28.9	25.1	15.6	28.2	18.2	13.6	17.4	20.2	26.9	29.8	13.3	21.2	28.6	34.2	28.1	20.9
	日本の長期失業者数	21.2	23.5	26.6	13.5	24.6	17.8	9.1	12.2	18.9	25.5	33.3	9.9	15.6	27.3	30.7	50.9	19.4
	直近の有効求人倍率	25.9	28.0	26.9	22.8	25.6	26.2	0.0	21.1	23.2	30.1	29.8	22.2	27.1	24.8	26.3	28.1	32.8
	検討している業界や職種の求人数	26.6	24.1	28.4	27.2	25.4	27.8	9.1	23.5	27.0	28.0	31.6	26.6	31.2	22.7	21.1	22.8	31.3

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説Ⅰ.労働市場の統計情報 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 1/2)

- ◆ 有用と思う情報の「転職理由」別の傾向は以下のとおりであった。
- 「直近の日本の離職率」は、「満足 of いく仕事内容ではなかった」が最も高い割合であった。
- 「日本の失業率」「直近の有効求人倍率」では、「健康上の理由」が最も高い割合であった。
- 「日本の長期失業者数」は、「家庭の都合」が最も高い割合であった。
- 「検討している業界や職種の求人数」は、「会社都合」が最も高い割合であった。
- いずれの項目においても、有用と思う割合が最も高い転職理由と最も低い転職理由の差分は、10ポイント程度であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×転職理由

			満足 of いく仕事内容ではなかった	会社や労働環境に不満があった	賃金が低かった	結婚・出産・育児・介護等家庭の都合	病気・怪我など自身の健康上の理由	契約期間の満了	会社都合
	該当数	1000	333	361	289	132	97	79	75
Ⅰ	直近の日本の離職率	25.2	35.7	31.0	32.2	31.8	27.8	31.6	26.7
	日本の失業率	23.2	25.8	29.1	33.6	26.5	37.1	32.9	26.7
	日本の長期失業者数	21.2	22.2	24.4	28.7	39.4	35.1	27.8	24.0
	直近の有効求人倍率	25.9	26.1	30.5	28.4	32.6	37.1	31.6	32.0
	検討している業界や職種の求人数	26.6	30.0	33.2	31.5	28.8	30.9	24.1	38.7

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説Ⅰ.労働市場の統計情報 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 2/2)

- ◆ 有用と思う情報の転職時の状況別傾向は以下のとおりであった。
- 雇用形態…ほぼ全ての項目において正規雇用の方が有用と思う割合が高いが、「検討している業界や職種の求人数」のみ、非正規雇用の割合が高く約30%である。
- 職業変更…現職と前職の異同による差はほぼ見られない。
- 企業規模…企業規模により求める情報の傾向に大きな差は見られないが、企業規模が大きいほど、有用と思う割合が高い傾向にある。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×雇用形態、現職と前職の異同、現職の企業規模

			雇用形態		現職と前職の異同		現職の企業規模				
			正規雇用	非正規雇用	同職種	異職種	29人以下	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上
	該当数	1000	669	331	543	457	172	196	242	160	230
Ⅰ	直近の日本の離職率	25.2	30.5	14.5	26.9	23.2	18.0	22.4	24.4	25.6	33.5
	日本の失業率	23.2	28.1	13.3	23.2	23.2	16.3	21.4	26.9	21.9	27.0
	日本の長期失業者数	21.2	25.3	13.0	19.3	23.4	14.5	17.3	26.0	25.0	21.7
	直近の有効求人倍率	25.9	26.8	24.2	26.3	25.4	22.1	24.5	24.0	32.5	27.4
	検討している業界や職種の求人数	26.6	24.8	30.2	28.2	24.7	25.0	28.1	19.4	28.8	32.6

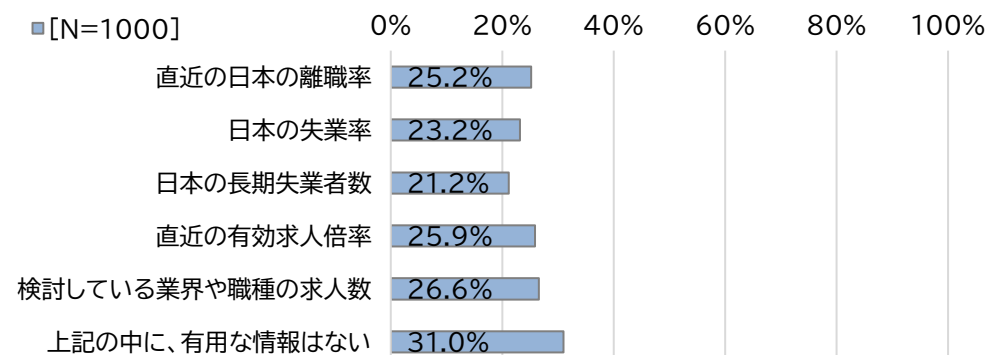
2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

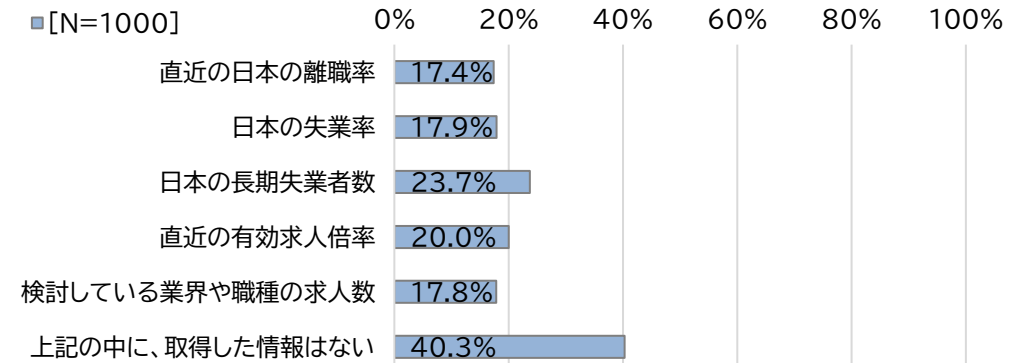
(仮説Ⅰ.労働市場の統計情報 | SQ③転職者が有用と考えているが取得できていない情報は何か)

- 「日本の長期失業者数」を除いた全ての情報について、有用と思うと回答した割合より、実際に取得したと回答した割合が下回っており、有用とは思いますが取得できなかった人が存在する。
- 「日本の長期失業者数」を除いた情報においては、両者(有用と思う／実際に取得した)の差分は5%～8%程度であり、他の仮説(Ⅱ～Ⅵ)と比べ全体的に差分が大きい(有用と思うが取得できていない人が多い)。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



直近の転職活動を行った際に、実際に取得した情報(MA)

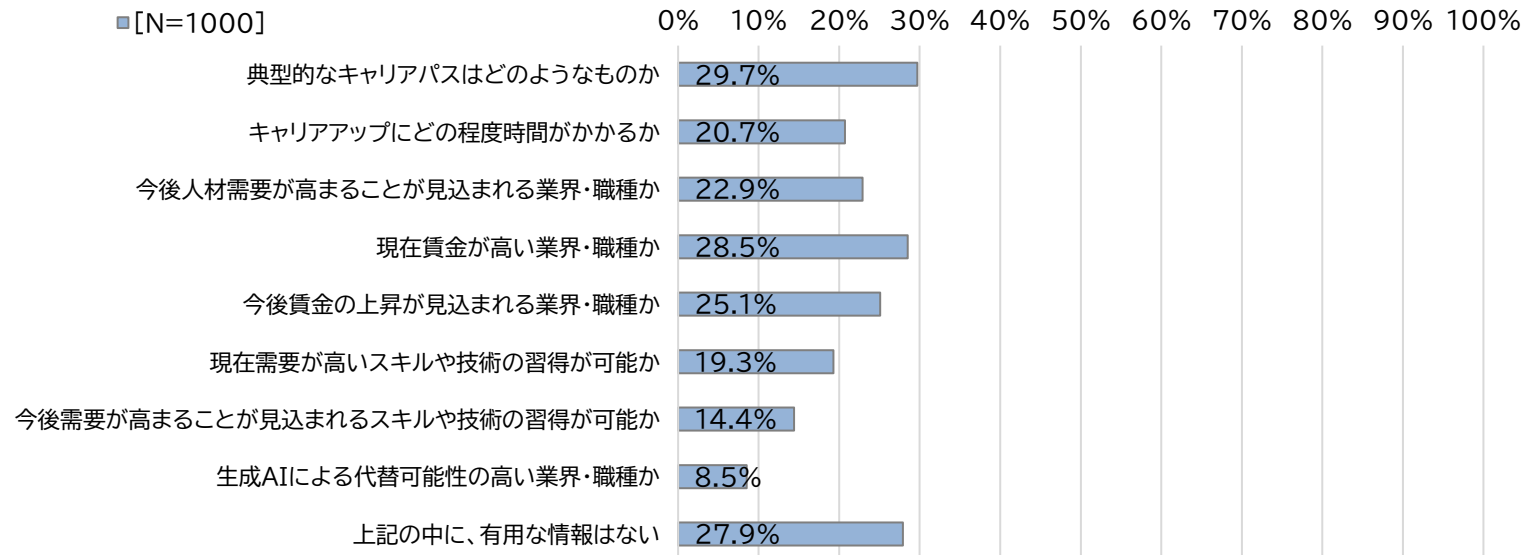


2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説Ⅱ.中長期的展望 | 全体)

- 仮説Ⅱ（中長期的展望）の各情報項目については、多くの項目で有用と思うとの回答割合が20％台であるが、「生成AIによる代替可能性の高い業界・職種か（8.5％）」は、他と比較すると低い結果であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



ヒアリング時のご意見

- ・「典型的なキャリアパス」、「キャリアアップにかかる時間」は、有用であるとの回答が多く、理由は以下であった。
 - 個社が公表することは難しく、業界×職種で一般的なキャリアパスの情報が欲しかった(取得はできず)。
 - 業界・職種情報として知りたい情報だが、企業からは公表されず外から見えない(知人を通じて取得)。
- ・賃金については、「現在の賃金水準」への関心が高く、「これからの水準の変化」については関心が高くなかった。
- ・「スキルや技術の習得が可能か」は、有用であるとの回答が多く、理由は以下であった。
 - 自身が希望するキャリアを実現するためのスキルを身に付けることができるかという観点で収集した。
 - 効率的に業務を遂行する観点から、必要なスキルを習得しやすい業種・職種の方が望ましいと考える。

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説Ⅱ.中長期的展望 | SQ①属性によって転職者が求める情報に差異はあるか)

- 年代…18-29歳と30歳代では、求める情報に大きな差分は見られない。
…40-59歳では、有用と思う割合が相対的に低い傾向にあり、「典型的なキャリアパスはどのようなものか」は18-29歳、30歳代と比較し10ポイント以上差が開いている。
- 性別…性別による差はほぼ見られない。「典型的なキャリアパスはどのようなものか」は男性が若干高く、「今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か」のみ女性が若干高い。
- 学歴…学歴により求める情報に大きな傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において、学歴が高いほど有用と思う割合が高い。
…大学・大学院卒では、「典型的なキャリアパス」を有用と思う割合が他より高く、約37%であった。
- 年収…年収による傾向の差はほぼ見られず、ほぼ全ての項目において、200万円以下で有用と思う割合が相対的に低い。差が顕著に開く項目は、「典型的なキャリアパスはどのようなものか」であり、200万円以下で9.4%に対し、600万円～1000万円の年収帯では40%後半であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×年代・性別・最終学歴・年収

			年代			性別		最終学歴					年収					
			18-29歳	30-39歳	40-59歳	男性	女性	中学卒	高校卒	専修学校・短期大学・高等専門学校卒	大学卒	大学院卒	200万円以下	200万円超～400万円以下	400万円超～600万円以下	600万円超～800万円以下	800万円超～1,000万円以下	1,000万円超
	該当数	1000	332	334	334	500	500	22	213	233	475	57	172	196	242	160	230	67
Ⅱ	典型的なキャリアパスはどのようなものか	29.7	35.2	32.9	21.0	33.2	26.2	13.6	18.3	26.6	36.2	36.8	9.4	26.2	37.4	47.4	49.1	34.3
	キャリアアップにどの程度時間がかかるか	20.7	23.2	22.5	16.5	22.4	19.0	9.1	20.2	15.5	23.4	26.3	16.3	17.4	22.7	24.6	28.1	29.9
	今後人材需要が高まることが見込まれる業界・職種か	22.9	23.5	23.7	21.6	24.4	21.4	9.1	13.6	21.9	27.8	26.3	13.8	21.8	23.9	31.6	35.1	26.9
	現在賃金が高い業界・職種か	28.5	31.6	30.5	23.4	28.6	28.4	13.6	27.7	21.9	33.1	26.3	23.6	32.7	28.6	24.6	24.6	32.8
	今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か	25.1	22.6	28.7	24.0	23.0	27.2	0.0	17.8	24.9	28.6	33.3	19.2	29.3	24.8	18.4	26.3	34.3
	現在需要が高いスキルや技術の習得が可能か	19.3	20.8	20.7	16.5	20.2	18.4	0.0	12.7	17.6	23.2	26.3	13.8	17.1	21.0	24.6	28.1	23.9
	今後需要が高まることが見込まれるスキルや技術の習得が可能か	14.4	14.5	13.2	15.6	14.0	14.8	0.0	8.9	14.6	17.5	14.0	13.3	15.3	14.7	11.4	15.8	16.4
	生成AIによる代替可能性の高い業界・職種か	8.5	9.3	9.6	6.6	8.4	8.6	4.5	4.2	7.7	10.7	10.5	8.9	7.2	10.1	5.3	12.3	10.4

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説Ⅱ.中長期的展望 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 1/2)

- ◆ 有用と思う情報の「転職理由」別の傾向は以下のとおりであった。
- 「典型的なキャリアパスはどのようなものか」では、「結婚・出産・育児・介護等家庭の都合」が最も高い割合であった。
- 「キャリアアップにどの程度時間がかかるか」では、「契約期間の満了」が最も高い割合であった。
- 「今後人材需要が高まることが見込まれる業界・職種か」では、「病気・怪我など自身の健康上の理由」が最も高い割合であった。
- 「現在賃金が高い業界・職種か」では、「会社都合」「契約期間の満了」が高い割合であった。
- 「今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か」では、「病気・怪我など自身の健康上の理由」「会社や労働環境に不満があった」が高い割合であった。
- 上記以外の項目においては、転職理由別による顕著な差は見られなかった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思える情報(MA)×転職理由

			満足いく仕事内容ではなかった	会社や労働環境に不満があった	賃金が低かった	結婚・出産・育児・介護等家庭の都合	病気・怪我など自身の健康上の理由	契約期間の満了	会社都合
	該当数	1000	333	361	289	132	97	79	75
Ⅱ	典型的なキャリアパスはどのようなものか	29.7	37.2	37.4	38.8	49.2	39.2	39.2	25.3
	キャリアアップにどの程度時間がかかるか	20.7	23.7	25.8	27.7	21.2	21.6	34.2	25.3
	今後人材需要が高まることが見込まれる業界・職種か	22.9	25.5	28.3	30.8	31.1	42.3	25.3	32.0
	現在賃金が高い業界・職種か	28.5	34.2	35.5	38.4	29.5	24.7	40.5	41.3
	今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か	25.1	26.7	33.2	30.1	28.0	34.0	22.8	29.3
	現在需要が高いスキルや技術の習得が可能か	19.3	22.2	26.9	23.2	29.5	30.9	30.4	28.0
	今後需要が高まることが見込まれるスキルや技術の習得が可能か	14.4	16.2	17.5	15.2	18.9	22.7	15.2	22.7
	生成AIによる代替可能性の高い業界・職種か	8.5	10.5	12.7	10.4	11.4	9.3	10.1	8.0

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説Ⅱ.中長期的展望 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 2/2)

- ◆ 有用と思う情報の転職時の状況別傾向は以下のとおりであった。
- 雇用形態…多くの情報において、雇用形態により求める情報に傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において正規雇用の方が有用と思う割合が高い。
…「典型的なキャリアパス」については顕著に差が開いており、正規雇用で約37%、非正規雇用で約15%である。
- 職業変更…現職と前職の異同による差はほぼ見られない。
- 企業規模…企業規模により求める情報の傾向に大きな差は見られないが、企業規模が大きいほど、有用と思う割合が高い傾向にある。
…「典型的なキャリアパス」については、29人以下と30人以上で差が開いており、29人以下で約12%、300～900人で約40%である。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×雇用形態、現職と前職の異同、現職の企業規模

			雇用形態		現職と前職の異同		現職の企業規模				
			正規雇用	非正規雇用	同職種	異職種	29人以下	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上
	該当数	1000	669	331	543	457	172	196	242	160	230
Ⅱ	典型的なキャリアパスはどのようなものか	29.7	37.2	14.5	28.0	31.7	12.2	24.0	34.3	40.0	35.7
	キャリアアップにどの程度時間がかかるか	20.7	23.0	16.0	21.5	19.7	15.1	16.8	19.0	20.0	30.4
	今後人材需要が高まることが見込まれる業界・職種か	22.9	26.3	16.0	22.3	23.6	11.0	19.4	25.6	26.9	29.1
	現在賃金が高い業界・職種か	28.5	29.3	26.9	29.8	26.9	23.8	29.6	23.1	31.3	34.8
	今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か	25.1	25.6	24.2	26.7	23.2	24.4	24.0	21.9	25.6	29.6
	現在需要が高いスキルや技術の習得が可能か	19.3	21.4	15.1	19.7	18.8	14.5	16.3	20.2	16.3	26.5
	今後需要が高まることが見込まれるスキルや技術の習得が可能か	14.4	14.8	13.6	14.9	13.8	13.4	9.7	16.1	13.1	18.3
	生成AIによる代替可能性の高い業界・職種か	8.5	8.2	9.1	8.7	8.3	4.7	7.1	7.9	9.4	12.6

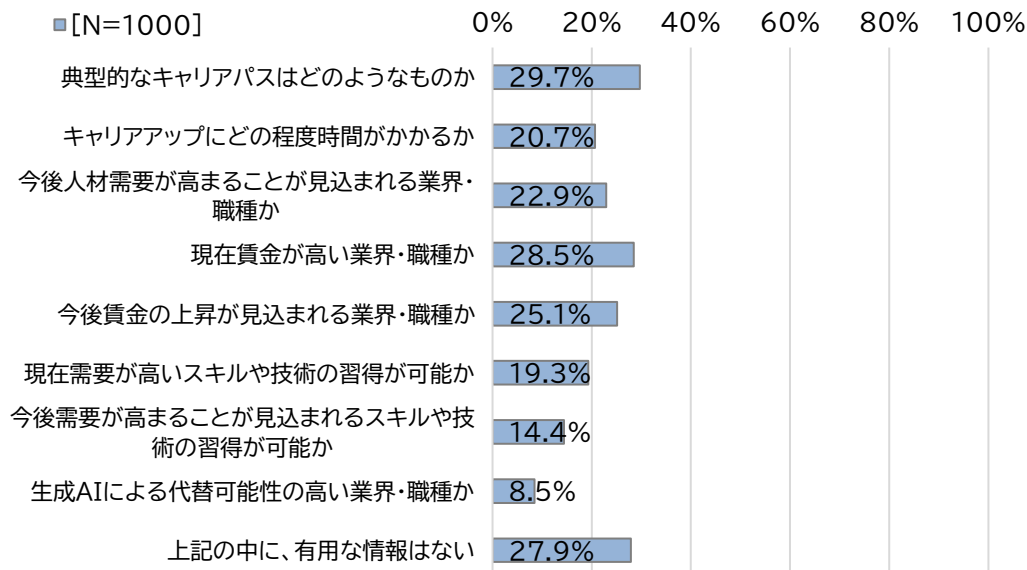
2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

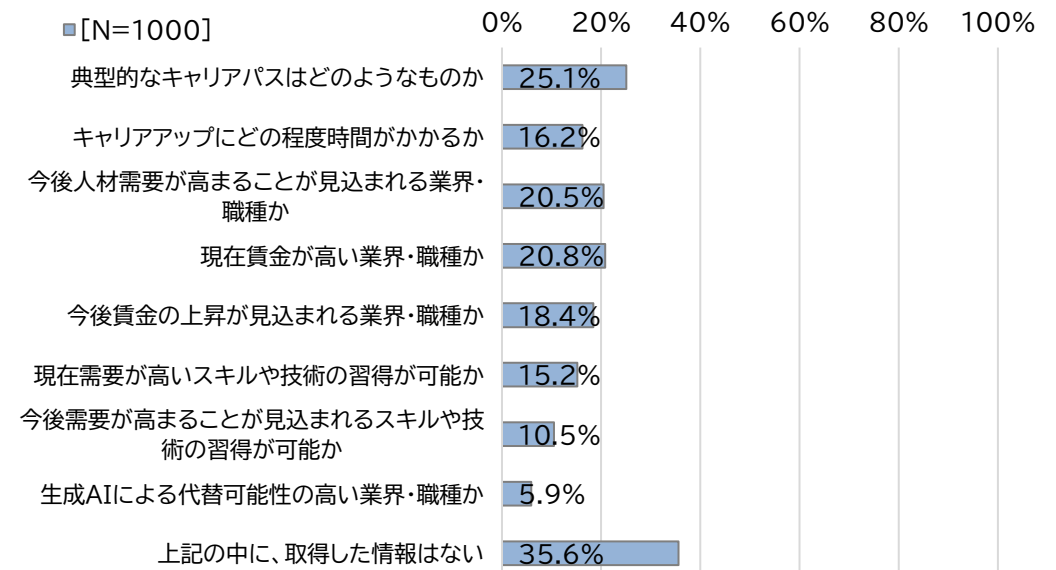
(仮説Ⅱ.中長期的展望 | SQ③転職者が有用と考えているが取得できていない情報は何か)

- いずれの情報についても、有用と思うと回答した割合より、実際に取得したと回答した割合が下回っており、有用とは思いますが取得できなかった人が存在する。
- 他の項目と比較し、両者(有用と思う／実際に取得した)の差分が大きい(有用と思うが取得できていない人が多い)項目は、「現在賃金が高い業界・職種か」「今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か」である(7%程度の差)。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



直近の転職活動を行った際に、実際に取得した情報(MA)

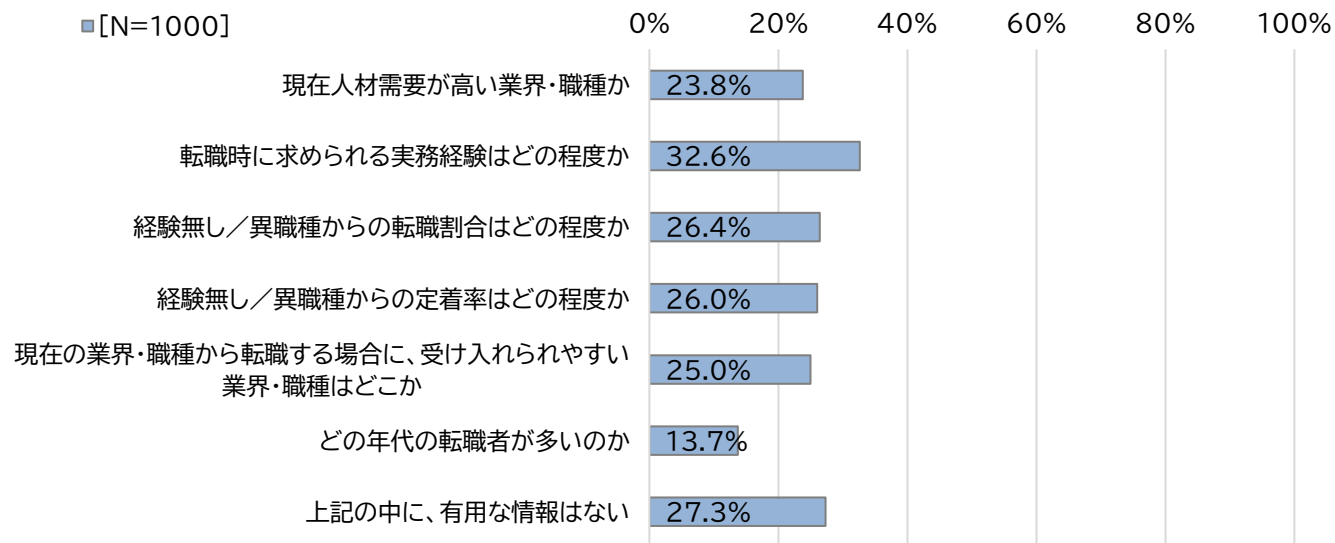


2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説Ⅲ.人材の流動状況 | 全体)

- 仮説Ⅲ(人材の流動状況)の各情報項目については、ほぼ全ての項目で有用と思うとの回答割合が20～30%台であるが、「どの年代の転職者が多いのか(13.7%)」は、他と比較すると低い結果であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



ヒアリング時のご意見

- 仮説Ⅲは全ての項目について有用であるとの回答であった。
- 特に有用と考える情報は「転職時に求められる実務経験」であり、理由は以下であった。
 - これまでの職務経験や、大学院で得た知識レベルで業務に耐えうるのかどうか確認したかった(取得)。
 - 希望の職種が未経験では難しい職種であることは知っており、どの程度の経験が求められるのか知りたかった(収集)。

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細（仮説Ⅲ.人材の流動状況 | SQ①属性によって転職者が求める情報に差異はあるか）

- 年代…18-29歳と30歳代では、求める情報に大きな差分は見られない。
…40-59歳では、有用と思う割合が相対的に低い傾向にあり、「転職時に求められる実務経験はどの程度か」は他の年代と比較し10ポイント以上低い。「どの年代の転職者が多いのか」のみ、40-59歳が最も高い回答割合となっている。
- 性別…性別による差はほぼ見られない。「現在人材需要が高い業界・職種か」は男性が若干高い。
- 学歴…学歴により求める情報に大きな傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において、学歴が高いほど有用と思う割合が高い。大学卒・大学院卒は同程度である。
- 年収…年収による傾向の差はほぼ見られず、ほぼ全ての項目において、200万円以下で有用と思う割合が相対的に低い。
…「どの年代の転職者が多いのか」は、200万円以下で最も有用と思う割合が高い。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×年代・性別・最終学歴・年収

			年代			性別		最終学歴					年収					
			18-29歳	30-39歳	40-59歳	男性	女性	中学卒	高校卒	専修学校・ 短期大学・ 高等専門 学校卒	大学卒	大学院卒	200万円 以下	200万円 超～400 万円以下	400万円 超～600 万円以下	600万円 超～800 万円以下	800万円 超～1,00 0万円以下	1,000万 円超
	該当数	1000	332	334	334	500	500	22	213	233	475	57	172	196	242	160	230	67
Ⅲ	現在人材需要が高い業界・職種か	23.8	28.0	22.8	20.7	26.8	20.8	13.6	18.3	21.0	27.8	26.3	15.8	27.4	23.1	26.3	21.1	31.3
	転職時に求められる実務経験はどの程度か	32.6	33.4	38.6	25.7	33.4	31.8	18.2	23.0	31.3	37.5	38.6	21.2	33.6	39.5	36.8	31.6	31.3
	経験無し／異職種からの転職割合はどの程度か	26.4	28.6	28.4	22.2	27.0	25.8	4.5	22.5	24.9	29.7	28.1	16.7	26.2	31.1	33.3	29.8	25.4
	経験無し／異職種からの定着率はどの程度か	26.0	28.9	26.9	22.2	25.6	26.4	0.0	20.7	22.7	30.5	31.6	21.7	26.8	23.1	32.5	29.8	31.3
	現在の業界・職種から転職する場合に、受け入れられやすい業界・職種はどこか	25.0	23.2	28.7	23.1	25.2	24.8	18.2	16.9	23.2	28.4	36.8	21.7	24.6	23.5	28.1	29.8	32.8
	どの年代の転職者が多いのか	13.7	12.0	13.8	15.3	12.6	14.8	4.5	13.1	12.4	15.4	10.5	17.7	16.5	10.1	8.8	7.0	14.9

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説Ⅲ.人材の流動状況 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 1/2)

- ◆ 有用と思う情報の「転職理由」別の傾向は以下のとおりであった。
- 「現在人材需要が高い業界・職種か」では、「満足のいく仕事内容ではなかった」「健康上の理由」が高く、「契約期間の満了」が最も低い結果であった。
- 「経験無し／異職種からの転職割合はどの程度か」では、「家庭の都合」が最も高く、「満足のいく仕事内容ではなかった」が最も低かった。
- 「経験無し／異職種からの定着率はどの程度か」では、「健康上の都合」「家庭の都合」が高く、「会社都合」が最も低い。
- 「現在の業界・職種から転職する場合に、受け入れられやすい業界・職種はどこか」では、「健康上の都合」「会社都合」「会社や労働環境への不満」が高く、「満足のいく仕事内容ではなかった」が最も高い。
- 上記以外の項目では、転職理由別による顕著な差は見られなかった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×転職理由

			満足のいく仕事内容ではなかった	会社や労働環境に不満があった	賃金が低かった	結婚・出産・育児・介護等家庭の都合	病気・怪我等自身の健康上の理由	契約期間の満了	会社都合
	該当数	1000	333	361	289	132	97	79	75
Ⅲ	現在人材需要が高い業界・職種か	23.8	35.7	28.3	27.0	19.7	35.1	13.9	28.0
	転職時に求められる実務経験はどの程度か	32.6	38.4	44.3	40.5	40.2	38.1	38.0	37.3
	経験無し／異職種からの転職割合はどの程度か	26.4	27.3	30.5	34.9	43.2	35.1	30.4	34.7
	経験無し／異職種からの定着率はどの程度か	26.0	33.0	30.5	33.2	37.1	38.1	36.7	28.0
	現在の業界・職種から転職する場合に、受け入れられやすい業界・職種はどこか	25.0	27.6	36.6	30.4	31.1	39.2	32.9	37.3
	どの年代の転職者が多いのか	13.7	14.4	18.3	16.3	11.4	17.5	16.5	20.0

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説Ⅲ.人材の流動状況 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 2/2)

- ◆ 有用と思う情報の転職時の状況別傾向は以下のとおりであった。
- 雇用形態…多くの情報において、雇用形態により求める情報に傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において正規雇用の方が有用と思う割合が高い。
…「どの年代の転職者が多いのか」のみ、非正規雇用の割合が若干高い。
- 職業変更…現職と前職の異同による差はほぼ見られない。「経験無し／異職種からの転職割合はどの程度か」「経験無し／異職種からの定着率はどの程度か」では、異職種への転職者の方が有用と思う割合が5ポイント程度高い。
- 企業規模…企業規模により求める情報の傾向に大きな差は見られないが、企業規模が大きいほど、有用と思う割合が高い傾向にある。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×雇用形態、現職と前職の異同、現職の企業規模

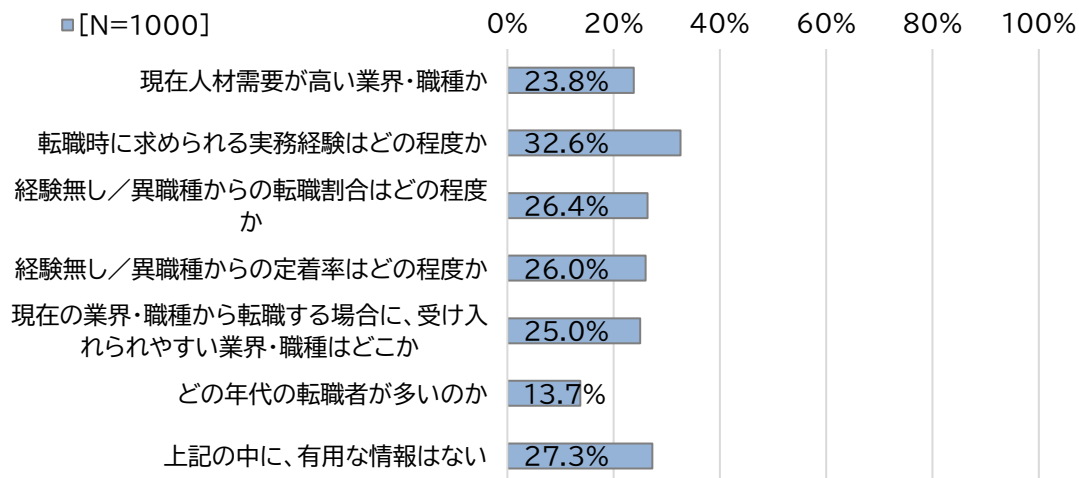
			雇用形態		現職と前職の異同		現職の企業規模				
			正規雇用	非正規雇用	同職種	異職種	29人以下	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上
	該当数	1000	669	331	543	457	172	196	242	160	230
Ⅲ	現在人材需要が高い業界・職種か	23.8	27.8	15.7	24.9	22.5	16.9	21.9	23.6	21.9	32.2
	転職時に求められる実務経験はどの程度か	32.6	35.3	27.2	34.4	30.4	26.7	28.6	31.0	35.6	40.0
	経験無し／異職種からの転職割合はどの程度か	26.4	30.5	18.1	23.4	30.0	18.6	27.6	30.2	28.8	25.7
	経験無し／異職種からの定着率はどの程度か	26.0	26.5	25.1	22.5	30.2	16.9	26.5	26.4	31.3	28.3
	現在の業界・職種から転職する場合に、受け入れられやすい業界・職種はどこか	25.0	26.0	23.0	28.4	21.0	18.6	23.5	26.4	26.3	28.7
	どの年代の転職者が多いのか	13.7	12.9	15.4	14.4	12.9	12.8	16.3	9.1	11.9	18.3

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

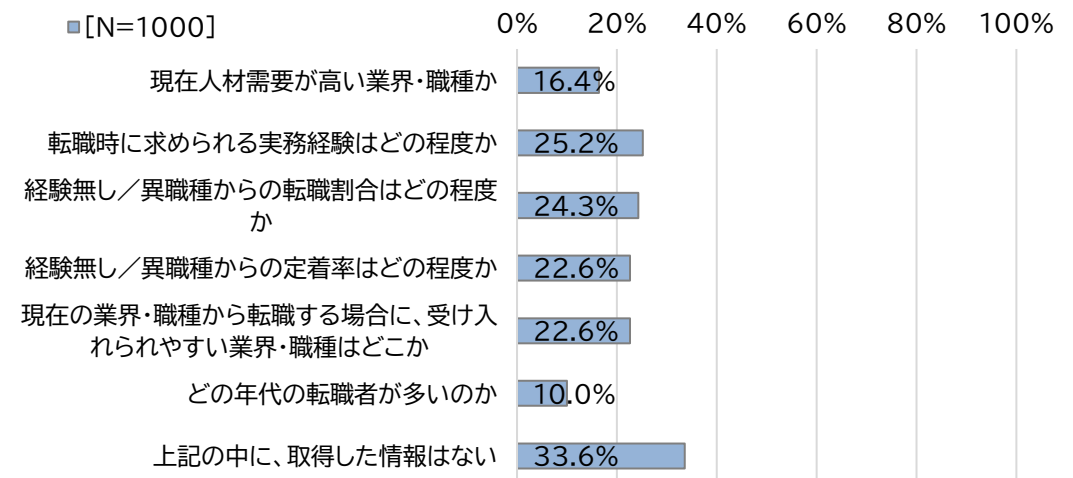
調査結果詳細 (仮説Ⅲ.人材の流動状況 | SQ③転職者が有用と考えているが取得できていない情報は何か)

- いずれの情報についても、有用と思うと回答した割合より、実際に取得したと回答した割合が下回っており、有用とは思いますが取得できなかった人が存在する。
- 他の項目と比較し、両者(有用と思う／実際に取得した)の差分が大きい(有用と思うが取得できていない人が多い)項目は、「現在人材需要が高い業界・職種か」「転職時に求められる実務経験はどの程度か」である(7%程度の差)。

転職先の業界・職種の検討に**有用**だと思う情報(MA)



直近の転職活動を行った際に、実際に**取得**した情報(MA)



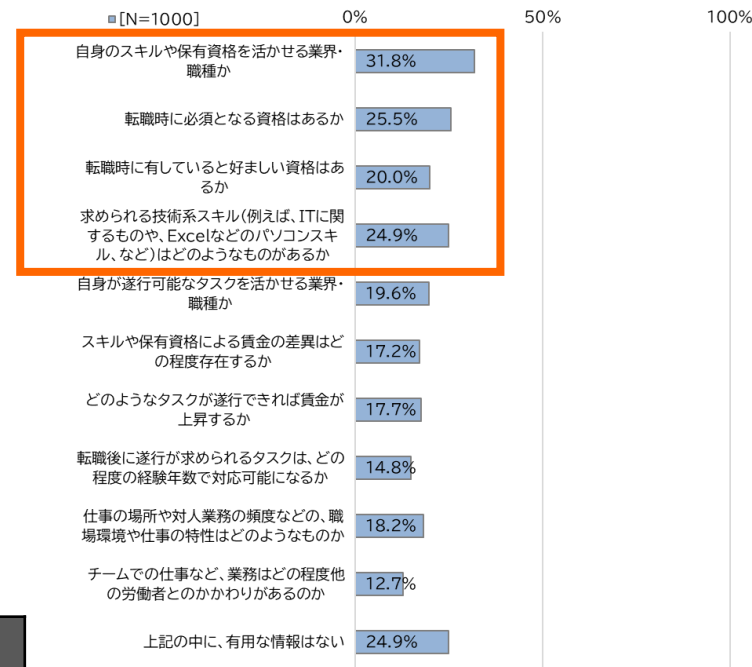
2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説Ⅳ.職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等 | 全体)

- 仮説Ⅳ(職務の内容・性質等)の各情報項目については、「スキル・資格」に関する情報を有用だと思う割合が他と比較し高く、20～30%台であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



ヒアリング時のご意見

- ・ 保有スキル・資格に関する情報は、ほとんどの転職者が有用であるとの回答であり、取得もされていた。
 - 保有スキル・資格と賃金の関係については、関心が高くなかった。
- ・ タスクに関連する情報は、回答者によって有用であるかどうかはばらつきが見られた。
- ・ 職場環境や他者とのかかわりの程度についての情報も回答者によって有用であるかどうかはばらつきが見られた。

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細(仮説Ⅳ.職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等 | SQ①)

- 年代…年代により求める情報にほぼ差は見られない。年代が低いほど、有用だと思う回答割合が高い。
…年代間で10ポイント以上の差がついている情報は、「求められる技術系スキルはどのようなものがあるか」「自身が遂行可能なタスクを活かせる業界・職種か」であり、前者は30歳代が最も高く、40歳代が最も低く、後者は18-29歳代が最も高く、40代が最も低い。
- 性別…ほとんどの項目で、性別による差はほぼ見られないが、「職場環境や仕事の特性はどのようなものか」
…「業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるか」は、女性の方が有用と思う割合が高い。
- 学歴…学歴により求める情報に大きな傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において、学歴が高いほど有用と思う割合が高い傾向にある。「職場環境や仕事の特性はどのようなものか」「業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるか」は、学歴による差が他と比較し小さい。
- 年収…年収による傾向の差はほぼ見られず、ほぼ全ての項目において、200万円以下で有用と思う割合が相対的に低い。「職場環境や仕事の特性はどのようなものか」「業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるか」は、年収による差が小さい。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思える情報(MA)×年代・性別・最終学歴・年収

			年代			性別		最終学歴		最終学歴		年収						
			18-29歳	30-39歳	40-59歳	男性	女性	中学卒	高校卒	専修学校・短期大学・高等専門学校卒	大学卒	大学院卒	200万円以下	200万円超～400万円以下	400万円超～600万円以下	600万円超～800万円以下	800万円超～1,000万円以下	1,000万円超
	該当数	1000	332	334	334	500	500	22	213	233	475	57	172	196	242	160	230	67
Ⅳ	自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か	31.8	33.4	31.7	30.2	31.2	32.4	27.3	22.1	29.6	36.6	38.6	22.2	35.8	30.3	36.0	38.6	34.3
	転職時に必須となる資格はあるか	25.5	28.0	27.2	21.3	23.6	27.4	13.6	20.2	24.5	29.5	21.1	20.2	29.3	26.1	25.4	26.3	20.9
	転職時に有していると好ましい資格はあるか	20.0	20.5	20.1	19.5	19.2	20.8	4.5	13.1	20.2	22.7	28.1	13.3	19.3	23.1	26.3	17.5	23.9
	求められる技術系スキルはどのようなものがあるか	24.9	24.7	30.2	19.8	24.4	25.4	9.1	17.4	18.9	29.7	43.9	18.2	24.0	26.1	34.2	28.1	26.9
	自身が遂行可能なタスクを活かせる業界・職種か	19.6	25.3	20.4	13.2	18.8	20.4	0.0	11.3	18.9	23.2	31.6	12.8	19.3	21.4	24.6	17.5	28.4
	スキルや保有資格による賃金の差異はどの程度存在するか	17.2	16.9	17.7	17.1	16.8	17.6	13.6	14.6	16.3	18.5	21.1	10.8	20.2	19.3	16.7	15.8	16.4
	どのようなタスクが遂行できれば賃金が上昇するか	17.7	20.2	16.8	16.2	16.0	19.4	9.1	10.8	19.3	20.2	19.3	14.3	21.2	14.7	15.8	22.8	20.9
	転職後に遂行が求められるタスクは、どの程度の経験年数で対応可能になるか	14.8	17.5	13.5	13.5	14.6	15.0	9.1	11.7	10.7	17.9	19.3	6.9	14.0	16.0	21.9	21.1	20.9
	仕事の場所や対人業務の頻度などの、職場環境や仕事の特性はどのようなものか	18.2	18.1	18.6	18.0	13.6	22.8	18.2	17.4	17.2	19.6	14.0	20.7	21.2	13.9	16.7	12.3	19.4
	チームでの仕事など、業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるのか	12.7	13.9	14.4	9.9	9.6	15.8	9.1	11.3	11.2	14.5	10.5	16.3	12.8	10.9	11.4	8.8	13.4

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説Ⅳ.職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等 | SQ② 1/2)

- ◆ 有用と思う情報の「転職理由」別の傾向は以下のとおりであった。
- 「自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か」では、「満足のいく仕事内容ではなかった」「会社や労働環境に不満があった」が高い結果であった。
- 「転職時に必須となる資格はあるか」「どのようなタスクが遂行できれば賃金が上昇するか」では、「会社都合」が最も高い結果であった。
- 「求められる技術系スキルはどのようなものがあるか」では、「家庭の都合」が最も高い結果であった。
- 上記以外の項目では、転職理由別による顕著な差は見られなかった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思える情報(MA)×転職理由

			満足のいく仕事内容ではなかった	会社や労働環境に不満があった	賃金が低かった	結婚・出産・育児・介護等家庭の都合	病気・怪我等自身健康上の理由	契約期間の満了	会社都合
	該当数	1000	333	361	289	132	97	79	75
Ⅳ	自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か	31.8	43.8	40.4	35.3	32.6	24.7	32.9	32.0
	転職時に必須となる資格はあるか	25.5	29.4	32.1	32.5	25.8	26.8	27.8	41.3
	転職時に有していると好ましい資格はあるか	20.0	23.7	27.4	26.0	24.2	27.8	24.1	24.0
	求められる技術系スキルはどのようなものがあるか	24.9	30.6	33.0	30.1	37.1	34.0	31.6	26.7
	自身が遂行可能なタスクを活かせる業界・職種か	19.6	24.9	28.8	21.8	26.5	27.8	30.4	30.7
	スキルや保有資格による賃金の差異はどの程度存在するか	17.2	23.7	22.4	23.5	22.7	17.5	17.7	26.7
	どのようなタスクが遂行できれば賃金が上昇するか	17.7	18.9	24.1	21.5	22.0	25.8	22.8	30.7
	転職後に遂行が求められるタスクは、どの程度の経験年数で対応可能になるか	14.8	16.2	20.8	20.4	20.5	18.6	25.3	22.7
	仕事の場所や対人業務の頻度などの、職場環境や仕事の特性はどのようなものか	18.2	22.5	23.8	23.9	18.2	18.6	22.8	24.0
	チームでの仕事など、業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるのか	12.7	18.0	18.8	15.6	12.9	12.4	12.7	12.0

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説Ⅳ.職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等 | SQ② 2/2)

- ◆ 有用と思う情報の転職時の状況別傾向は以下のとおりであった。
- 雇用形態…多くの情報において、雇用形態により求める情報に傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において正規雇用の方が有用と思う割合が高い。
…「職場環境や仕事の特性はどのようなものか」「業務はどの程度他の労働者」とのかかわりがあるのか」のみ、非正規雇用の割合が高い。
- 職業変更…現職と前職の異同による差はほぼ見られない。「自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か」では、同職種での転職の方が割合が5ポイントほど高い。
- 企業規模…企業規模により求める情報の傾向に大きな差は見られないが、企業規模が大きいほど、有用と思う割合が高い傾向にある。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×雇用形態、現職と前職の異同、現職の企業規模

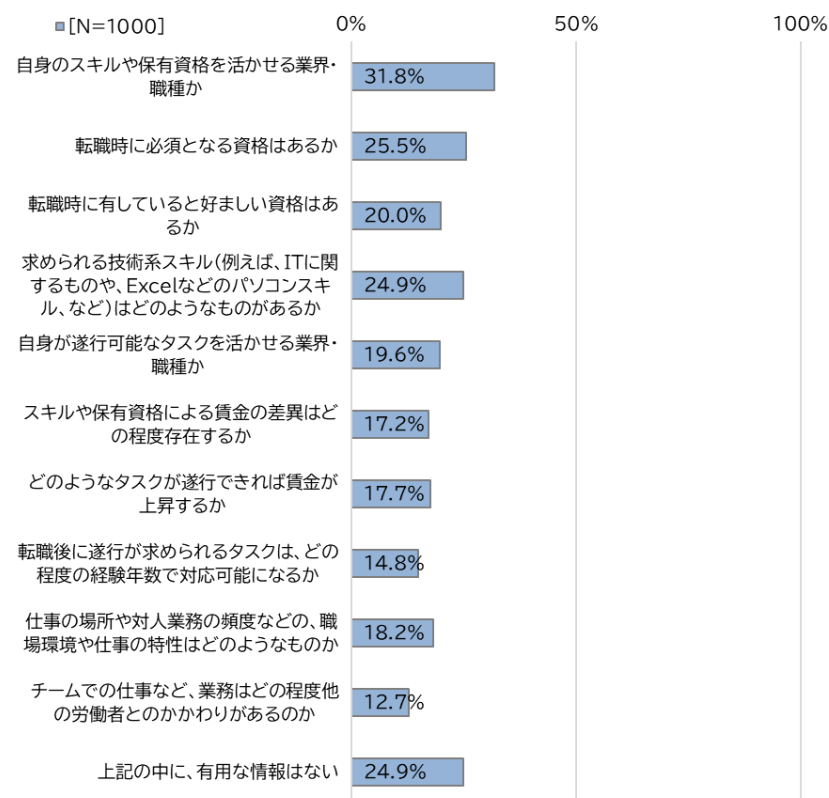
			雇用形態		現職と前職の異同		現職の企業規模				
			正規雇用	非正規雇用	同職種	異職種	29人以下	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上
	該当数	1000	669	331	543	457	172	196	242	160	230
Ⅳ	自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か	31.8	34.2	26.9	34.1	29.1	28.5	30.1	27.3	31.9	40.4
	転職時に必須となる資格はあるか	25.5	26.0	24.5	26.3	24.5	17.4	19.9	29.8	25.0	32.2
	転職時に有していると好ましい資格はあるか	20.0	22.4	15.1	19.7	20.4	14.5	15.8	19.4	24.4	25.2
	求められる技術系スキルはどのようなものがあるか	24.9	26.2	22.4	26.2	23.4	15.7	24.0	23.1	28.8	31.7
	自身が遂行可能なタスクを活かせる業界・職種か	19.6	22.3	14.2	21.0	17.9	14.5	18.9	18.2	17.5	27.0
	スキルや保有資格による賃金の差異はどの程度存在するか	17.2	18.2	15.1	17.3	17.1	11.6	19.9	15.3	17.5	20.9
	どのようなタスクが遂行できれば賃金が上昇するか	17.7	18.7	15.7	18.8	16.4	18.6	17.3	10.3	22.5	21.7
	転職後に遂行が求められるタスクは、どの程度の経験年数で対応可能になるか	14.8	17.3	9.7	15.8	13.6	10.5	13.8	12.4	15.0	21.3
	仕事の場所や対人業務の頻度などの、職場環境や仕事の特性はどのようなものか	18.2	16.9	20.8	19.0	17.3	14.5	19.4	14.9	13.1	27.0
	チームでの仕事など、業務はどの程度他の労働者とのかわりがあるのか	12.7	11.5	15.1	14.0	11.2	14.5	12.2	9.5	12.5	15.2

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

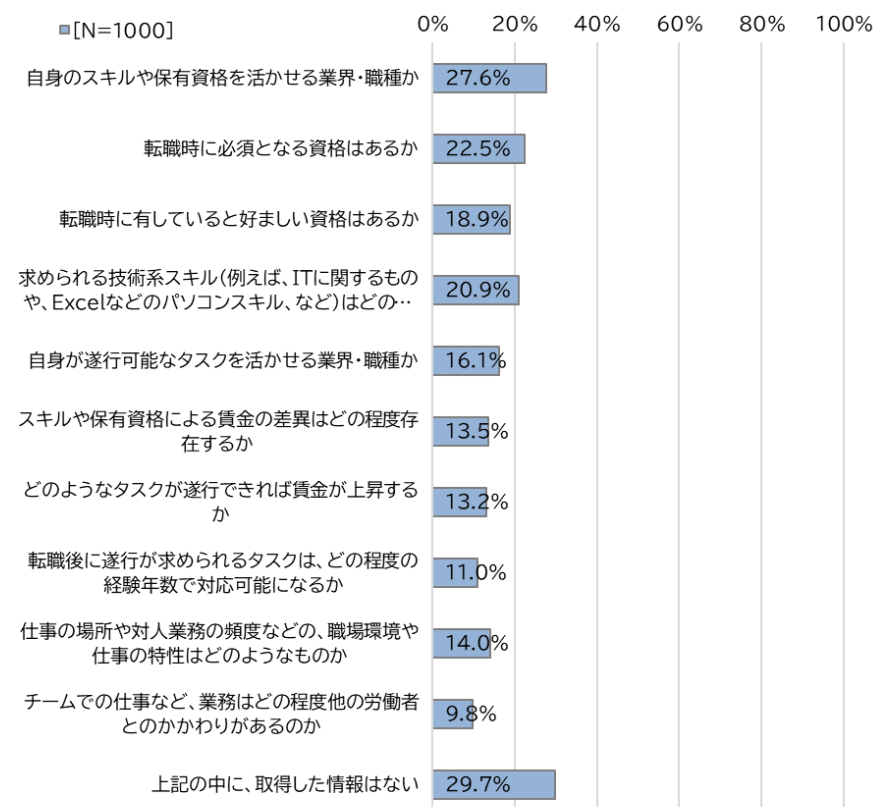
調査結果詳細 (仮説Ⅳ.職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等 | SQ③)

- いずれの情報についても、有用と思うと回答した割合より、実際に取得したと回答した割合が下回っており、有用とは思いが取得できなかった人が存在する。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



直近の転職活動を行った際に、実際に取得した情報(MA)



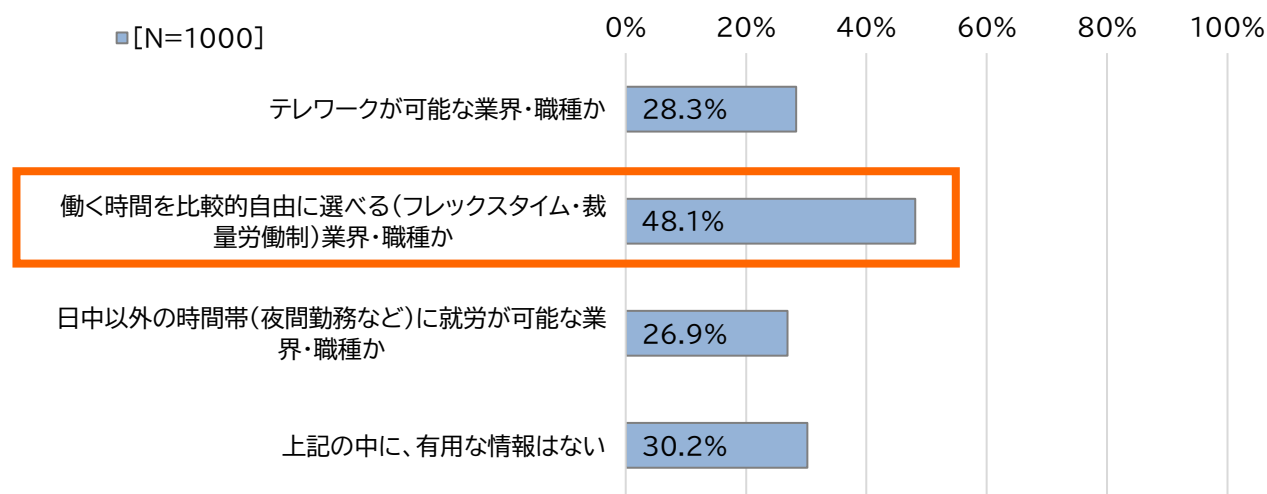
2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説V.働き方に関する情報 | 全体)

- 仮説V(働き方)の各情報項目については、「働く時間を自由に選択できる職種か(フレックスタイム制度など)」を有用と思う回答割合が他と比較して高く、約48%であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



ヒアリング時のご意見

- テレワークやフレックスタイム制に関する情報は、需要が高かった。(個社情報としても需要が高かったが、)職業情報としても収集されていた。
- 日中以外の時間帯(夜間勤務など)に就労が可能かどうか、については業種によって収集されている場合もあった。

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細(仮説V.働き方 | SQ①属性によって転職者が求める情報に差異はあるか)

- 年代…年代により求める情報にほぼ差は見られない。40-59歳では、有用と思う割合が他と比較し低い。
…「テレワークが可能な業界・職種か」については、18-29歳が最も高く、40-59歳が最も低く、10ポイント程度差がついている。「働く時間を比較的自由に選べる業界・職種か」については、30歳代が最も高く40-59歳が最も低く、10ポイント程度差がついている。
- 性別…性別による差はほぼ見られない。
- 学歴…学歴により求める情報に大きな傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において、学歴が高いほど有用と思う割合が高い。大学卒・大学院卒は同程度である。
- 年収…年収による傾向の差はほぼ見られず、ほぼ全ての項目において、200万円以下で有用と思う割合が相対的に低い。
…800万～1000万円以下の年収帯においては、「日中以外の次解体に就労が可能な業界・職種か」を有用と思う割合が約44%と高い。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×年代・性別・最終学歴・年収

			年代			性別		最終学歴				年収						
			18-29歳	30-39歳	40-59歳	男性	女性	中学卒	高校卒	専修学校・ 短期大学・ 高等専門 学校卒	大学卒	大学院卒	200万円 以下	200万円 超～400 万円以下	400万円 超～600 万円以下	600万円 超～800 万円以下	800万円 超～1,00 0万円以下	1,000万 円超
	該当数	1000	332	334	334	500	500	22	213	233	475	57	172	196	242	160	230	67
V	テレワークが可能な業界・職種か	28.3	32.5	29.6	22.8	29.4	27.2	13.6	20.7	20.2	34.5	43.9	19.2	30.8	26.9	32.5	33.3	37.3
	働く時間を比較的自由に選べる(フレックスタイム・裁量労働制)業界・職種か	48.1	49.4	52.4	42.5	49.2	47.0	9.1	39.4	45.1	53.9	59.6	36.0	46.4	52.1	60.5	49.1	56.7
	日中以外の時間帯(夜間勤務など)に就労が可能な業界・職種か	26.9	27.7	26.6	26.3	27.8	26.0	18.2	23.5	24.9	29.3	31.6	22.7	28.7	28.2	21.9	43.9	20.9

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説V.働き方 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 1/2)

- ◆ 有用と思う情報の「転職理由」別の傾向は以下のとおりであった。
- 「働く時間を比較的自由に選べる業界・職種か」では、「家庭の都合」「契約期間の満了」が高い結果であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思える情報(MA)×転職理由

			満足のいく仕事内容ではなかった	会社や労働環境に不満があった	賃金が低かった	結婚・出産・育児・介護等家庭の都合	病気・怪我など自身の健康上の理由	契約期間の満了	会社都合
	該当数	1000	333	361	289	132	97	79	75
V	テレワークが可能な業界・職種か	28.3	39.9	36.8	33.2	31.1	36.1	43.0	28.0
	働く時間を比較的自由に選べる(フレックスタイム・裁量労働制)業界・職種か	48.1	49.2	55.7	56.1	67.4	55.7	65.8	54.7
	日中以外の時間帯(夜間勤務など)に就労が可能な業界・職種か	26.9	28.5	32.1	36.0	38.6	34.0	30.4	30.7

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説V.働き方 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 2/2)

- ◆ 有用と思う情報の転職時の状況別傾向は以下のとおりであった。
- 雇用形態…「テレワークが可能な業界・職種か」「働く時間を比較的自由に選べる業界・職種か」では、正規雇用の方が有用と思う割合が高いが、「日中以外の時間帯に就労が可能な業界・職種か」は、雇用形態による差はほぼない。
- 職業変更…現職と前職の異同による差はほぼ見られない。「働く時間を比較的自由に選べる業界・職種か」は、異職種への転職者が有用と思う割合が8ポイントほど高い。
- 企業規模…企業規模により求める情報の傾向に大きな差は見られないが、企業規模が大きいほど、有用と思う割合が高い傾向にある。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×雇用形態、現職と前職の異同、現職の企業規模

			雇用形態		現職と前職の異同		現職の企業規模					
			正規雇用	非正規雇用	同職種	異職種	29人以下	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	
		該当数	1000	669	331	543	457	172	196	242	160	230
V	テレワークが可能な業界・職種か		28.3	31.2	22.4	28.5	28.0	20.9	21.9	23.6	30.6	42.6
	働く時間を比較的自由に選べる(フレックスタイム・裁量労働制)業界・職種か		48.1	51.3	41.7	44.2	52.7	32.6	44.9	52.9	51.9	54.8
	日中以外の時間帯(夜間勤務など)に就労が可能な業界・職種か		26.9	26.8	27.2	27.8	25.8	21.5	24.5	26.4	35.6	27.4

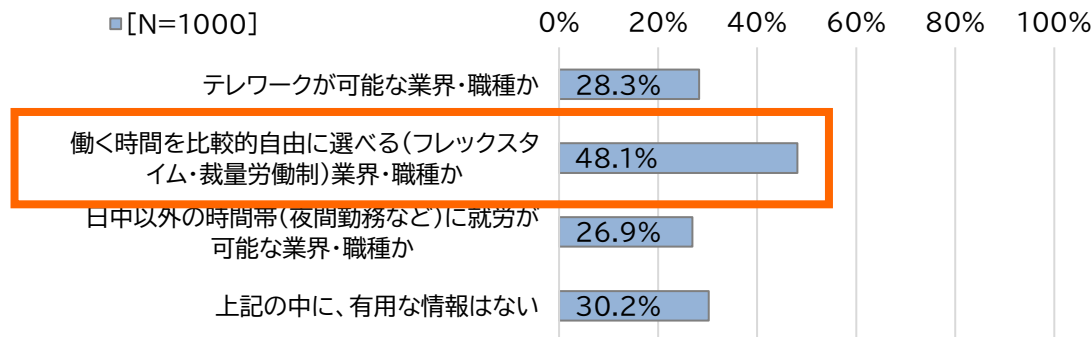
2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

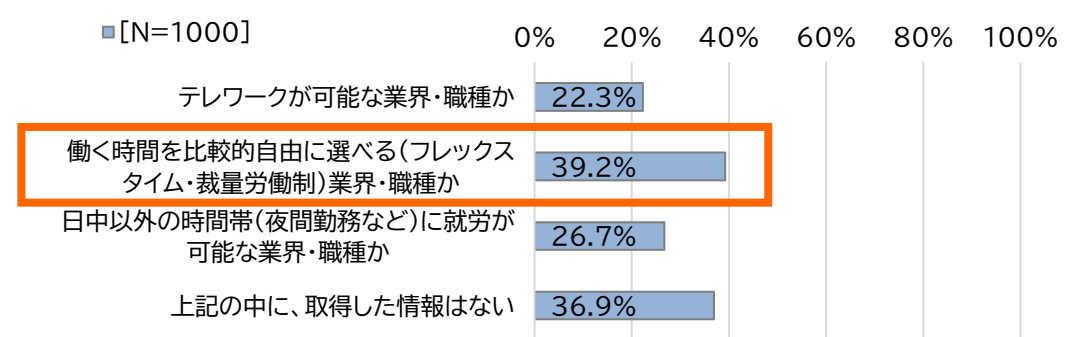
(仮説V.働き方 | SQ③転職者が有用と考えているが取得できていない情報は何か)

- いずれの情報についても、有用と思うと回答した割合より、実際に取得したと回答した割合が下回っており、有用とは思いますが取得できなかった人が存在する。
- 他の項目と比較し、両者(有用と思う／実際に取得した)の差分が大きい(有用と思うが取得できていない人が多い)項目は、「働く時間を自由に選択できる職種か(フレックスタイム制度など)」である(9%程度の差)。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



直近の転職活動を行った際に、実際に取得した情報(MA)

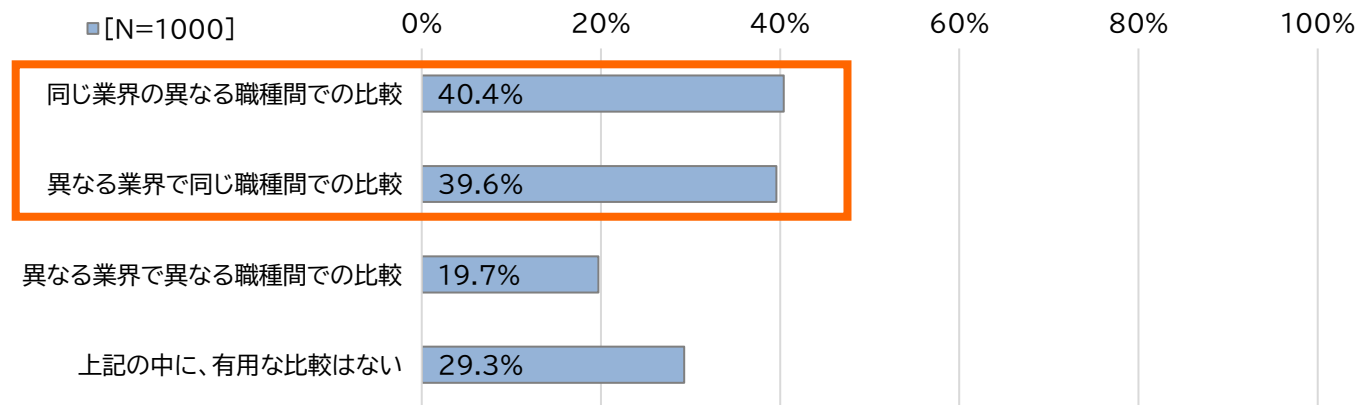


2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細 (仮説VI.職業間比較 | 全体)

- 仮説VI(職業間比較)の各情報項目については、「同じ業界の異なる職種間での比較」、「異なる業界で同じ職種間での比較」を有用と思う回答割合が他と比較して高く、約40%であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



ヒアリング時のご意見

- ・ 転職者によって有用だと思うかどうかにはばらつきがみられたが、有用と考える転職者によっては、職業情報重要視していた。
 - 様々な民間サイトで比較をしたが、手間であり、情報を比較できるサイトがあると助かる、との声もあった。

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説VI.職業間比較 | SQ①属性によって転職者が求める情報に差異はあるか)

- 年代…年代により求める情報にほぼ差は見られない。40-59歳では、有用と思う割合が他と比較し低い。
- 性別…性別による差はほぼ見られない。
- 学歴…学歴により求める情報に大きな傾向の差は見られないが、ほぼ全ての項目において、学歴が高いほど有用と思う割合が高い。
- 年収…年収による傾向の差はほぼ見られず、ほぼ全ての項目において、200万円以下で有用と思う割合が相対的に低い。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×年代・性別・最終学歴・年収

			年代			性別		最終学歴					年収					
			18-29歳	30-39歳	40-59歳	男性	女性	中学卒	高校卒	専修学校・短期大学・高等専門学校卒	大学卒	大学院卒	200万円以下	200万円超～400万円以下	400万円超～600万円以下	600万円超～800万円以下	800万円超～1,000万円以下	1,000万円超
	該当数	1000	332	334	334	500	500	22	213	233	475	57	172	196	242	160	230	67
VI	同じ業界の異なる職種間での比較	40.4	41.9	42.8	36.5	42.8	38.0	22.7	33.3	37.8	44.0	54.4	28.6	44.9	39.9	43.9	38.6	52.2
	異なる業界で同じ職種間での比較	39.6	39.5	44.3	35.0	41.4	37.8	22.7	29.1	39.9	42.3	61.4	28.1	38.0	43.7	49.1	50.9	41.8
	異なる業界で異なる職種間での比較	19.7	20.5	21.0	17.7	19.6	19.8	9.1	16.4	20.6	21.7	15.8	16.7	19.9	21.0	21.9	21.1	17.9

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説VI.職業間比較 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 1/2)

- ◆ 有用と思う情報の「転職理由」別の傾向は以下のとおりであった。
- 「同じ業界の異なる職種間での比較」は、「会社都合」が最も高い結果であった。
- 「異なる業界で同じ職種間での比較」は、「家庭の都合」が最も高い結果であった。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)×転職理由

			満足のいく仕事内容ではなかった	会社や労働環境に不満があった	賃金が低かった	結婚・出産・育児・介護等家庭の都合	病気・怪我など自身の健康上の理由	契約期間の満了	会社都合
	該当数	1000	333	361	289	132	97	79	75
VI	同じ業界の異なる職種間での比較	40.4	49.2	49.6	44.3	47.7	47.4	51.9	54.7
	異なる業界で同じ職種間での比較	39.6	45.6	47.9	49.8	53.0	47.4	41.8	40.0
	異なる業界で異なる職種間での比較	19.7	22.5	24.1	26.3	31.8	25.8	29.1	24.0

2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

(仮説VI.職業間比較 | SQ②転職時の状況によって求める情報に差異があるか 2/2)

- ◆ 有用と思う情報の転職時の状況別傾向は以下のとおりであった。
- 雇用形態…雇用形態により求める情報に傾向の差は見られず、ほぼ全ての項目において正規雇用の方が有用と思う割合が高い。
- 職業変更…「同じ業界の異なる職種間での比較」のみ、同職種への転職者が有用と思う割合が高い。
- 企業規模…企業規模により求める情報の傾向に大きな差は見られないが、企業規模が大きいほど、有用と思う割合が高い傾向にある。

転職先の業界・職種の検討に**有用だと思える情報**(MA)×雇用形態、現職と前職の異同、現職の企業規模

			雇用形態		現職と前職の異同		現職の企業規模				
			正規雇用	非正規雇用	同職種	異職種	29人以下	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上
	該当数	1000	669	331	543	457	172	196	242	160	230
VI	同じ業界の異なる職種間での比較	40.4	45.1	30.8	42.7	37.6	30.8	36.7	38.8	42.5	50.9
	異なる業界で同じ職種間での比較	39.6	42.9	32.9	38.3	41.1	29.7	34.7	44.6	44.4	42.6
	異なる業界で異なる職種間での比較	19.7	19.9	19.3	16.2	23.9	14.0	20.9	16.9	20.0	25.7

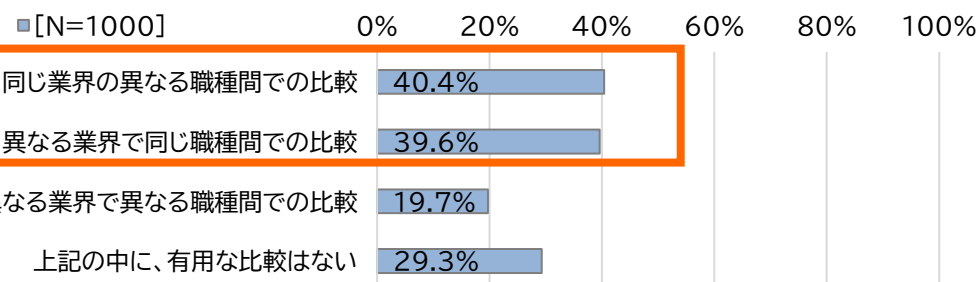
2. 調査結果詳細／2.1 アンケート調査／2.2.3 アンケート調査結果詳細

調査結果詳細

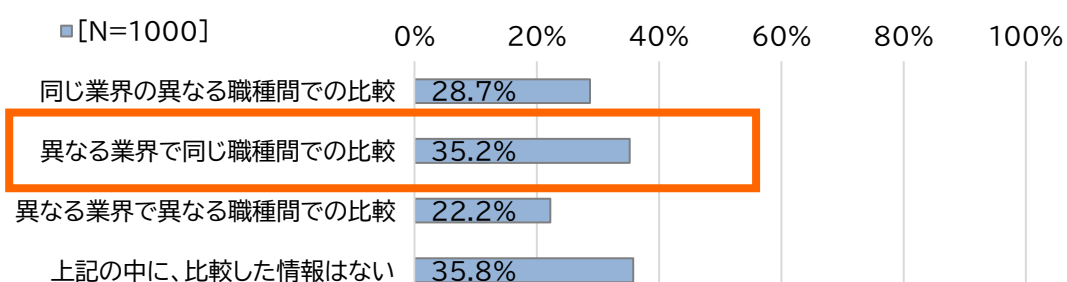
(仮説VI.職業間比較 | SQ③転職者が有用と考えているが取得できていない情報は何か)

- 「同じ業界の異なる職種間での比較」「異なる業界で同じ職種間での比較」については、有用と思うと回答した割合より、実際に取得したと回答した割合が下回っており、有用と思うが取得できなかった人が存在する。
- 特に、「同じ業界の異なる職種間での比較」は、両者(有用と思う／実際に取得した)の差分が大きく(12%程度の差)、有用と思うが取得できていない人が他と比較し多い。

転職先の業界・職種の検討に有用だと思う情報(MA)



直近の転職活動を行った際に、実際に取得した情報(MA)



2. 調査結果詳細

- 2.1 アンケート調査
- 2.2 ヒアリング調査

調査対象者選定方針・選定者の在籍企業

- 対象者の偏りを避け、以下の方針で対象を決定。

項目	方針
企業規模	大企業・中小企業あわせて10人。
産業・職種	偏りがないように選定。
転職先	異業界・異職種転換したものを中心に選定。

- 今回のヒアリング対象者の在籍企業は右記の通り。

NO.	企業名	規模	業種
1	A社	大企業	製造業
2	B社	中小企業	製造業
3	C社	大企業	シンクタンク業
4	C社	大企業	シンクタンク業
5	D社	中小企業	建設業
6	D社	中小企業	建設業
7	E社	大企業	印刷業
8	E社	大企業	印刷業
9	F社	中小企業	運送業
10	G社	中小企業	卸売業

【概要】本ヒアリング調査にて明らかになったこと 1/2

- I.労働市場の統計
 - 情報を収集している人は多くなかった。
- II.中長期的展望
 - キャリアパスは「個社情報では収集しにくいため」職業情報の観点で収集されていた。
 - 賃金については、「現在の賃金水準」への関心が高く、「これからの水準の変化」については関心が高くない。
 - スキルが身につくかどうか、については関心が高く収集されていた。
- III.人材の流動状況
 - 「現在需要が高い職種かどうか」は特定の職種によっては、有用だと考えられている情報であるということが分かった。
 - 実務経験について、多くの転職者に有用だと考えられ、また収集されていた。
- IV.職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等
 - スキル・資格については、ほとんどの転職者が収集していた
 - タスクについては人によってばらつきがみられた

【概要】本ヒアリング調査にて明らかになったこと 2/2

● V.働き方に関する情報

- テレワークやフレックスタイム制については、全般的に需要が高かった。(個社情報としても需要が高かったが、)職業情報としても収集されていた。
- 日中以外の時間帯(夜間勤務など)に就労が可能かどうか、については業種によって収集されている場合もあった。

● VI. 業界内外での比較

- 転職者によってばらつきがみられた
- 職業情報を比較すること自体には一定の需要があると考えられる。

● job tagに対するご意見

- 適職診断など、job tagに掲載の「自己診断ツール」は全般的に評価が高く、事前に知っていたら使用したかったとの声が多かった。
- 職業情報の図表的要素は、主に中小企業への転職者に需要があった。
- 改善点として、情報がわかりにくく、見やすさや情報の見せ方に工夫の余地があるとの指摘。

2. 調査結果詳細／2.2 ヒアリング調査／2.2.3 ヒアリング調査結果詳細

大分類別ご意見(Ⅰ.労働市場の統計情報)

◆ 以下のご意見をいただいた。

- ✓ 就職活動の各フェーズ(特に、転職検討開始時、業種・職種検討段階、面談準備段階、最終決定時)において、収集した情報、有用であった情報
- ✓ 取得しなかったが、探せなかった情報

仮説Ⅰ.労働市場の統計	
情報項目別	ご意見
全般	● 収集はしておらず、この情報で転職するかどうかは決めないためそこまで有用ではない。 ● ①-⑤は取得していない。正規雇用であり、転職が必須の状況でもなかったため。社会情勢によっては参考にする可能性はある。 ● ①-⑤は取得していない。資格の勉強をしている中で日々目にはしていた ● 特に収集していないが、転職時に社会常識を身につけておくという観点で、収集したかったとは考える。 ● 特に収集していない。必要ないと考える。
① 直近の日本の離職率	● 特に、①-③はどちらかというとネガティブな情報であるが、転職活動をする事自体、前向きである以上、あまり役にたつ場面の想像がつかない。転職を考えている人達からすると、不要ではないか ● ①②③は、年齢的に解雇の可能性は低く有用ではない、かつ取得もしていない。
② 日本の失業率	
③ 日本の長期失業者数	
④ 直近の有効求人倍率	● ④⑤は、タイミングが悪い時に転職をしなくなかったため、新聞やニュースから取得していた ● ④はデザイナーの有効求人倍率などを調べていた。 ● ⑤は有用だと思うが△といったところ。競争率を把握することは良いかと思う。取得タイミングとしては、転職検討開始時や業種・職種検討段階あたりであると有用 ● ⑤は、個社情報としては収集した。
⑤ 検討している業界や職種の求人数	

2. 調査結果詳細／2.2 ヒアリング調査／2.2.3 ヒアリング調査結果詳細

大分類別ご意見(Ⅱ.中長期的展望)

◆ 以下のご意見をいただいた。

仮説Ⅱ.中長期的展望	
情報項目別	ご意見
全般	● ①-⑧は採用面接を受ける前に収集し、本当にこの業界・職種でよいか判断する材料として使用した。 ● ①-⑧で取得した情報はない。 ● ③-⑦は、職種チェンジを検討する際にヒントになる。 ● ①②③⑥⑦は、内定後に、現職の方々とお話する機会があり、そのタイミングで確認した ● ①②⑥⑦⑧は同業界や職種、企業規模が類似している友人・知人に確認した。 ● ①②③④⑧は転職先の職種を検討する段階で収集した。 ● ①②④⑤⑥⑦は、業界・職種を選択する際に、取得した
① 典型的なキャリアパス	● ①②は取得しなかった。他社の状況を知りたい。その業界・企業で、人事部を2,30年続けた場合のキャリアパスがわからない。個社が公表することは難しいと思われ、業界×職種で一般的なキャリアパスの情報があれば参考になる。 ● ①②は、業界・職種情報として知りたかった情報。ここが一番外から見えない。同業界や職種、企業規模が類似している企業の知人から取得した。大企業ではキャリアパスが決まっていることが多い。転職を検討している段階で取得した。 ● ①人事の場合、キャリアパスは各社で異なる。(年功序列／実力主義、など)
② キャリアアップにかかる時間	
③ 今後人材需要が高まることが見込まれる業界・職種か	● ③は直近、ネットショッピングの普及などでドライバーの需要が高まっていることを調べた。
④ 現在賃金が高い業界・職種か	● ④は「オープンワーク」などのWebサイトを活用して調べた。 ● ④は民間のサイトで業界・職種の傾向を見ていた。 ● ④は事務職がおよそいくらもらえるのか、営業職から変わることによっていくら変わるのかを調べた。 ● ④はドライバーの賃金が著しく低くないことを事前に調べた。
⑤ 今後賃金の上昇が見込まれる業界・職種か	● ⑤事務職が今後どのように賃金が推移するのかについて調べた。
⑥ 現在需要が高いスキルや技術の習得が可能か	● ⑥⑦を取得した。社員訪問の中で聞いた。需要が見込まれるかという観点のみならず、自身が希望するキャリア(特定分野の専門性を高めるなど)を実現するためのスキルを身に付けることができるか、という観点で情報収集した。 ● ⑥⑦⑧は取得しなかったものの、有用であるとする。効率的に業務を遂行する観点から、必要なスキルを習得しやすい業種・職種の方が望ましいと考える。
⑦ 今後需要が高まることが見込まれるスキルや技術の習得が可能か	
⑧ 生成AIによる代替可能性の高い業界・職種か	● ⑧は面白い着眼点である。転職活動時に考えた。人事制度設計は、将来生成AIに代替されるのではという点が気になっている。ドイツで、職業が生成AIにとって代わられるというサイト(https://job-futuromat.iab.de/)があるが、危機感をあおるだけではなく、リスクリングを促すサイトになっている。こういったスキルを身につけると良いといった情報もある。そういった情報が日本でもあると面白い ● ⑧は今後も取得しない。人事の仕事は代替可能性が高いと思う一方、一部が代替され業務内容・質が変わると理解

2. 調査結果詳細／2.2 ヒアリング調査／2.2.3 ヒアリング調査結果詳細

大分類別ご意見(Ⅲ.人材の流動状況)

◆ 以下のご意見をいただいた。

仮説Ⅲ.人材の流動状況	
情報項目別	ご意見
全般	● ①-⑥全てを個社情報として取得しなかった。 ● ③-⑥は探せない情報であり、面接で聞くしか術がなかった。面接準備段階で特に重要 ● ①-⑥は全て取得できなかった。
① 現在人材需要が高い業界・職種か	● ①はドライバー不足が社会問題になっており需要が高まっているという情報を取得した。 ● ①はデザイナーの需要がどの程度、どの地域で存在しているのかを調査した。
② 転職時に求められる実務経験	● ②はこれまで自分が培ってきた経験や職種が世の中に求められているのか、需要と供給のバランスは気になっていた。転職エージェントに教えてもらう情報を頼りにしていた ● ②はこれまでの職務経験や、大学院で得た知識レベルで業務に耐えうるのかどうかについて確認した。 ● ②は事務職の転職にあたり、要求される実務経験の程度について情報を収集した。 ● ②は実務経験がどの程度ドライバーに求められるのかについて収集した。 ● ②はデザイナーが未経験だと難しい職種であることを知っていたので、どの程度の経験が求められるのかを収集していた。
③ 経験無し/異職種からの転職割合	● ③は異職種への転職を検討しなかったため収集していない。 ● ③は収集しなかったが、現在の自分の職種が転職先で受け入れられる可能性がどの程度あるのかを把握できるのは有用だと考える。 ● ③は収集できなかったが、あったら有用であったと考える。
④ 経験無し/異職種からの定着率	● ④は過去の転職活動で収集した。長く働くことができる環境かどうかを見極めたかった。 ● ③は収集できなかったが、あったら有用であったと考える。
⑤ 現在の業界・職種から転職する場合に、受け入れられやすい業界・職種はどこか	● ⑤は有用であると考えていたが取得できなかった。この情報があれば転職活動の助けになった。 ● ③は収集できなかったが、あったら有用であったと考える。
⑥ どの年代の転職者が多いのか	● ⑥は収集していないが、自分が求められている年代に当てはまる場合には転職の後押しになり有用 ● ⑥は、個社は出せない情報。職業情報としてあると良いのではないかと ● ⑥は収集したいと考えていたが、掲載場所がわからず、収集できなかった。 ● ⑥はどの年代が多いのかについては収集した

2. 調査結果詳細／2.2 ヒアリング調査／2.2.3 ヒアリング調査結果詳細

大分類別ご意見(Ⅳ.職務の内容・性質、賃金及び求められる経験・スキル等)

◆ 以下のご意見をいただいた。

仮説Ⅳ.職務内容・性質等	
情報項目別	ご意見
全般	● ①②③④⑤⑨を中心に、収集しようと注意を払っていたポイントである。応募前に収集していた。 ● ①-⑦は取得したが、収集は大変だった。情報がまとまったサイトがあると嬉しい。
① 自身のスキルや保有資格を活かせる業界・職種か	● ①-④の「スキルや資格」情報は、社員訪問を通じて取得した。スキルに関しては、大学院時代に獲得した知識やスキルを活かすことができるかを職業選択時に最も重視していた。 ● ①-④は求人に応募するにあたり必要な情報である。 ● ①-④、⑥は、人事では、スキル・資格は必須なものがなくそれほど重要ではない。②よりは③が必要。 ● ①は取得していた。個社の情報の前に、業界の情報としても取得していた。人事領域だと、人事部以外にも人事コンサルといった似た職種もあるため、そういった周辺情報も調べていた。 ● ②は必要な資格を保持していない場合、確実に落とされるため必ず確認するだろう。 ● ②③の資格情報は、必要な情報であった。保有資格による年収差を知りたかった。 ● ②社会保険労務士の資格が必須かどうかを確認していた。 ● ③や⑥は、転職活動の初期(転職検討開始時や業種・職種検討段階)で有用と思う。 ● ①資格を活かせるか、②必須となる資格は何か、④運転技術が活かせるかなどは気にしていた。 ● ③は収集できなかったが、あったら有用であったと考える。
② 転職時に必須となる資格	
③ 転職時に有していると好ましい資格	
④ 求められる技術系スキル	
⑥ スキルや保有資格による賃金の差異はどの程度存在するか	
⑤ 自身が遂行可能なタスクを活かせる業界・職種か	● ⑤⑦⑧⑨⑩はタスク関連の情報は収集していない。転職活動の際に、そこまで詳細な職務内容について収集して転職先を検討することは稀で、大まかな業務内容に関心があるのではないか。 ● ⑤はこれまでの経験を活かすという意味で必須。職種を変えても通用することが掴めればより良い。職種をタスクに細分化した時に、評価される経験、賃金やポジションへの反映の仕組みが可視化されると良い。 ● ⑤は、勤務時間内に課せられるタスクの程度や遂行可能かという観点で収集した。タスクよりもスキルに関する情報を収集。 ● ⑦は、取得したいと思っていたが取得できなかった情報である。 ● ⑦、⑧は転職活動後段(面談準備段階や最終決定時)に有用と思う。 ● ⑧は将来の話であり特に意識していない項目。提示されると確かに有用とは思う。 ● ⑤⑦⑧は、タスク関連の情報は有用と思わない。入職後に覚えていけば良いのではないか。
⑦ どのようなタスクが遂行できれば賃金が上昇するか	
⑧ 転職後に遂行するタスクは、どの程度の経験年数で対応可能になるか	
⑨ 仕事の場所や対人業務の頻度など、職場環境や仕事の特性	● ⑨⑩は特に重要視していない。ある程度予想がつく。 ● ⑩は、必要な情報かどうかは人によるところが大きい。対人関係が難しい人もそれなりに多いと思う。 ● ⑩は、転職活動後段(面談準備段階や最終決定時)に有用と思う。 ● ⑩について、チームでの遂行業務かどうかを気にしていた。 ● ⑩は一人で遂行できる仕事が良かったため気にしていた。
⑩ チームでの仕事など、業務はどの程度他の労働者とのかわりの有無	

2. 調査結果詳細／2.2 ヒアリング調査／2.2.3 ヒアリング調査結果詳細

大分類別ご意見（V.働き方に関する情報）

◆ 以下のご意見をいただいた。

仮説V.働き方に関する情報	
情報項目別	ご意見
全般	● ①②は収集していたが、他の情報に劣後。絞り込んだ求人の中で優先順位をつける際に活用する情報。 ● ①②は子育て・仕事の両立のため、保育園への送り迎えができるか等の観点で収集した。 ● ①②は情報取得していた。業界・職種単位でも見ていた。 ● ①②は転職時に、職種選択の段階でテレワークや柔軟な働き方ができる職種かどうかを気にして調べていたため、重要視していた。 ● 分類Ⅰ～Ⅳの情報に比べると有用ではない。業界が同じであっても個社によって異なる情報 ● ①②テレワークや柔軟な働き方が可能かどうかは、職業情報・個社情報の両方で取得した
① テレワークが可能な業界・職種か	● ①は、ホワイト／ブルーカラーである程度見当がつく。だが、新卒や第二新卒には必要な情報と思う。 ● ①転職時はコロナ禍前であり、当時はまだテレワークが一般的ではなかった。
② 働く時間を比較的自由に選べる(フレックスタイム等)業界・職種か	● ②子育てと両立できるかどうかという観点で労働時間が柔軟かどうか情報を収集していた。 ● ②フレックスタイムは業界・職種というよりも個社による。
③ 日中以外の時間帯(夜間勤務など)に就労が可能な業界・職種か	● ③夜勤ができる職種かどうかは、転職時に最も重視していた項目の一つである。

2. 調査結果詳細／2.2 ヒアリング調査／2.2.3 ヒアリング調査結果詳細

大分類別ご意見(VI. 業界内外での比較)

◆ 以下のご意見をいただいた。

仮説VI. 業界内外での比較	
情報項目別	ご意見
全般	● 賃金比較については、政府統計から把握可能だが、一般の人はなかなかたどり着けない。分かり易く、簡易な操作で確認できるものがあると良い。 ● 特に収集していない。
① 同じ業界の異なる職種間での比較	
② 異なる業界で同じ職種間での比較	● ②は収集した。業種は変わっても、職種は同じ人事職に転職したいと考えていた。 ● ②は個社間での比較をしていた
③ 異業界かつ異職種間での比較	● ③は様々な民間サイトで比較をしたが、手間だった。情報を比較できるサイトがあると助かる ● 警備員など、夜間勤務という観点で比較はした。

その知と歩もう。

MRI 三菱総合研究所